

一 在官中履歷書

二 市町村長ノ證明シタル戸籍調書

但官吏恩給法第十四條第二項ニ掲ケタル者ハ之ヲ添付スルニ及ハス

第四條 公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ痲痺ニ罹リ恩給ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其事實ヲ證明スヘシ官吏恩給法第六條ニ依リ恩給ヲ請求スル者亦同シ

一 現認證書又ハ之ヲ證明シタル公文ノ寫若クハ口共書

二 醫師診斷證書

第五條 恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ査覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在官年數及恩給年額計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

各廳長官ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第六條 内閣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り本屬廳ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 恩給ノ支給

第七條 恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三個月分ヲ大藏省ヨリ本八居住地ノ地方廳ヲ經テ支給ス但權利消滅ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラス之ヲ支給ス

第八條 恩給ヲ受ケタル者其金額ヲ受領セントスルトキハ恩給證書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ

第九條 恩給ヲ受ケタル者他府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキハ從來ノ居住地ノ地方廳及轉籍若クハ寄留地ノ地方廳ニ其旨届出ヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ大藏省ニ通知シ各廳間互ニ其旨ニ係ル恩給支給方ノ受継ヲ爲スヘシ

大藏省ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ内閣恩給局ニ通知スヘシ

第十條 官吏恩給法第十二條ニ當リタル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルベシ

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ

其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 判任官以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受ケタルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

三 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレハキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ終リ刑期満限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

第十二條 官吏恩給法第七條第二項ニ掲ケル月俸トハ明治四年六月東京淺草米原ノ平均相場ニ依リ當時ノ官祿一個月分ニ相當スル金額トス

第十二條 官吏恩給法第三條ニ掲ケル最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ノ等差ハ左ノ如シ

第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七

第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ痲痺ニ罹リタルトキ 十分ノ六

第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五

第四項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ痲痺ニ罹リタルトキ 十分ノ四

第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三

第六項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ痲痺ニ罹リタルトキ 十分ノ二

傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年達文官傷痍疾病等差例ニ依ル

第三章 恩給ノ停止

第十三條 恩給ヲ受ケタル者重罪若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其確定裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第十四條 官吏恩給法第十二條第二項ノ第一ニ當ル者アルトキハ其任用シタル官廳ヨリ大藏省ニ通知スヘシ解任シタルトキモ亦同シ但此通知書ニハ本人恩給ノ支給ヲ受ケタル地方廳名及俸給ノ支給ヲ始ムル日(解任ノトキハ支給ヲ終リタル日)ヲ付記スヘシ

第十五條 恩給ヲ受ケタル者死去シタルトキハ其遺族ヨリ地方廳ニ届出ヘシ其遺族ニシテ扶助料ヲ受ケヘキ

權利ナキトキハ死去ノ届出ヲ爲スト同時ニ恩給證書ヲ送納スヘシ

第十六條 大藏省ニ於テ第十三條第十四條第十五條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第十三條第十四條ノ場合ニ於テハ地方廳ニ通知シテ其恩給ノ支給ヲ停止シ又ハ復給セシムヘシ

地方廳ニ於テ此通知ヲ受ケタルトキ其恩給ヲ剝奪スヘキモノハ恩給證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第四章 雜則

第十七條 水火災盜難等ニ由リ恩給證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ内閣恩給局ニ申出ヘシ此

場合ニ於テ恩給局ハ恩給證書ノ謄本ヲ作り地方廳ヲ經テ本人ニ下付スヘシ

前項恩給證書ノ謄本ハ恩給證書ト同一ノ効力アルモノトス

第十八條 恩給ヲ受ケル者改氏名シタルトキハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ地方廳ハ恩給證書ノ裏面ニ其事

實ヲ記載シ長官署名捺印ノ上本人ニ下付シ其旨ヲ内閣恩給局及大藏省ニ通知スヘシ

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル

一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三 改氏名又ハ他府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキ

第二十條 官吏恩給法第二十條ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ

第二十一條 市制町村制ヲ施行セザル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之

ヲ行フヘシ

大藏省令 明治二十三年十月 本年法律第四十三號第四十四號第四十五號ニ依リ恩給及扶助料ヲ受ケルモノハ 每期受領ノトキハ本人生存證書ヲ恩給證書ニ添ヘ差出スヘシ

第三節 扶助

法律 明治二十三年六月 官吏遺族扶助法 裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 文官判任以上ノ者左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ扶助料ヲ

受ケルノ權利ヲ有ス但第二條ノ納金ヲナスヘキ義務ナキ者ノ遺族ハ此限ニアラス

一 在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ

二 在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ

三 恩給ヲ受ケル者死去シタルトキ

第二條 文官判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ

第三條 交際官及領事貿易事務官等其俸給普通文官ヨリ多額ナルトキハ普通文官ノ俸給ニ依リ少額ナルト

キハ現ニ受ケル所ノ俸給ニ依リ第二條ノ納金ヲ爲スヘシ

政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判任官見習ノ俸給及兼官ニ

依テ受ケル加俸ニ對シテハ第二條ノ納金ヲ要セス

第四條 寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受ケタル若クハ受ケヘキ恩給年額三分ノ一トス

公務ノ爲メ受ケタル傷痕ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞動及困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ

又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病者ニ感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ

死去シタル者ノ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シテ官吏恩給法第五條ニ依リ算出シタル恩給年額三分ノ二トス

扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第五條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受ケル寡婦死去シ若クハ權利消滅シタルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

第六條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼續者ニ給シ戸主ニ非サル者ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼續

者及長子死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモノトス但家名

繼承者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス
 第七條 恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其夫退官後結婚シタル者ハ扶助料ヲ受ケルコトヲ得ス
 第八條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未満ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云但養男女子ハ家名繼承者ニ限ル
 第九條 扶助料ハ之ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス
 第十條 扶助料ヲ受ケヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒ノ籍ヲ去リ若クハ死去シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得
 其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セザルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル
 第十一條 扶助料ヲ受ケヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未満又ハ痲疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一個年分ヨリ少カラス五個年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラス一時限其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得
 第十二條 扶助料ハ之ヲ受ケヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三個年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモ得ス
 第十三條 扶助料ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス
 第十四條 扶助料ヲ受ケルノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅ス
 一 寡婦死去又ハ結婚シ若クハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月
 二 孤兒死去又ハ結婚シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齢二十歳ニ滿チタル月ノ翌月
 三 父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月
 第十五條 孤兒二十歳ニ滿ツルモ痲疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハス他ニ給養スル者ナキトキハ寡婦扶助料ノ三分ノ一ヲ其孤兒ニ各終身給スルコトヲ得但一戸籍内ニ寡婦ト同額ノ扶助料ヲ受ケタル者アルトキハ其間之ヲ給セス
 第十六條 扶助料ヲ受ケル者日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ扶助料ノ支給ヲ廢ス
 公權ヲ停止セラレタルトキハ其間支給ヲ停止ス
 扶助料ヲ受ケル者公權停止中ハ其轉給ヲ受ケヘキ者ニ之ヲ給ス
 第十七條 在官十五年未満ノ者在官中公務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス
 前項ノ扶助金ハ在職最終ノ俸給年額百分ノ一ノ在官年數ニ乘タル額トス但一年未満ノ在官月數ハ計算セス
 第十八條 扶助料ノ支給ハ地方長官ノ申牒ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス
 行政上ノ處分ニ因リ扶助料ニ關スル權利ヲ侵害セラレタル者ハ六個月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一個年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第十九條 明治十七年達官更恩給令ニ依リ扶助料ヲ受ケタル者及恩給ヲ受ケタル者ノ遺族扶助料ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル
 第二十條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

閣令 明治十三年七月官更遺族扶助法施行規則左ノ通定ム
 官更遺族扶助法施行規則
 第一章 扶助料ノ請求
 第一條 官更遺族扶助法第一條第二條及第十七條ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ヨリ死者ノ履歴書ヲ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料又ハ一時扶助金請求ノ證ト爲スヘシ
 第二條 官更遺族扶助法第三條第三項ニ當ル者遺族ハ其恩給證書ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ
 第三條 官更遺族扶助法第四條第二項ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ニ於テ事實ヲ查覈シ其傷疾若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及醫師ノ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其診斷書ヲ併セテ

其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ
 第四條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ請フ
 者ハ前者ノ扶助料證書ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ
 第五條 公權停止ニ因リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキモノハ確定裁判ノ宣告書寫ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ
 第六條 官吏遺族扶助法第十一條及第十五條ニ當ル者ハ其事由ヲ詳記シ療疾不具ニシテ產業ヲ營ムコト能
 ハサル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ扶助料ヲ請求スヘシ
 第七條 扶助料ノ請求書ハ請求者署名シ(後見人アレハ其後見人連署スヘシ)親族二名親族ナキトキハ居
 住地ノ戸主二名連署シ市町村長ノ與印ヲ受ケ第一條乃至第六條ニ掲クル書類ノ外市町村長ノ證明シタル
 戸籍調書ヲ添附シ地方長官ニ差出スヘシ
 第八條 扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ査覈ノ上扶助料年額ノ計算書ヲ作り證據類ヲ添ヘ内閣總理大
 臣ニ差出スヘシ
 内閣ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作り地方廳ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但一時ノ支給ニ
 係ルモノハ辭令書ヲ用ユ
 扶助料證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ
 第二章 納金ノ徵收
 第九條 官吏遺族扶助法第二條ニ掲クル納金ハ俸給支給ノトキ各廳ニ於テ之ヲ徵收シテ國庫ニ納ムヘシ
 第三章 扶助料ノ支給及停止
 第十條 扶助料ノ支給ハ官吏恩給法施行規則第七條第八條第九條及第十條第一第三ノ例ニ依ル
 第十一條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキハ地方廳ニ於テ扶助
 料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方廳ニ於テ其扶助料證書ヲ收メテ内閣恩給局
 ニ送付スヘシ

第十二條 扶助料ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ公權ヲ停止セラレタルトキハ官吏恩給法施行規則
 第十三條ノ例ニ依ル
 第十三條 大藏省ニ於テ第十一條第十二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩給法施行規則第十六條ノ例ニ依ル
 雜則
 第十四條 水火災盜難等ニ依リ扶助料證書ヲ亡失シタルトキ及扶助料ヲ受クル者改氏名ヲ爲シタルトキハ
 官吏恩給法施行規則第十七條及第十八條ノ例ニ依ル
 第十五條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ同令ニ依リ扶助料ヲ受ク
 ル者ハ左ノ場合ニ於テ本則ニ依ル
 一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ
 二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ
 三 改氏名又ハ他府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキ
 第十六條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之
 ヲ行フヘシ

第三十五章 監獄

勅令 明治二十二年七月日 監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第十二日 第九十三號
 監獄則
 第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス
 一 集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス
 三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 四 拘留監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス

五 留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタルモノヲ拘禁スルコトヲ得

六 懲治場 不倫罪ニ係ル幼若及瘡啞者ヲ懲治スル所トス

第二條 監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス

第三條 築治監(北海道ニ在ルモノヲ除ク)及假留監ハ内務大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視總監北海道廳長官府縣知事(東京府ヲ除ク)之ヲ管理ス

第四條 内務大臣ハ隨時監獄巡閱官ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監北海道廳長官府縣知事(東京府ヲ除ク)ハ毎年少クトモ一回所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘留監獄ヲ巡視スヘシ

檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡視スヘシ

第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡見スルコトヲ得

第六條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令狀又ハ宣告書ヲ査閱シテ之ヲ領シ其領收證ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監セシムルコトヲ得ス

第七條 在監ノ婦女其子ヲ乳養セント請フトキハ其齡滿三歳ニ至ル迄之ヲ許ス

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ

第九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シ監獄内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定スルトキハ典獄ハ其狀況ニ依リ在監ノ囚人懲治人及刑事被告人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシムヘシ若シ押送スルノ邊ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放ニ適ヒタルタル者ハ其時ヨリ二十四時以内ニ監署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十條 滿期ノ者ヲ釋放スルハ其滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十一條 囚人ハ各罪質ニ從テ嚴ニ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一 滿十二歳以上十六歳未滿ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

三 滿二十歳以上ノ者

四 滿十六歳以上二十歳未滿再犯ノ者

五 滿二十歳以上再犯ノ者

第十二條 懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

一 滿八歳以上十六歳未滿ノ者

二 十六歳以上二十歳未滿ノ者

三 滿二十歳以上ノ者

第十三條 刑事被告人ハ各罪質ニ從テ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一 滿十二歳以上十六歳未滿ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

三 滿二十歳以上ノ者

第十四條 地方監獄、拘留監、懲治場ノ一區畫内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫ス

第十五條 凡監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ男ト女トヲ分子時宜ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得但懲治人ニハ戒具ヲ用ヒス

第十七條 定役ニ服スヘキ囚人ノ作業ハ每囚ノ體力ニ應シテ之ヲ課シ一日ノ料程ヲ定メテ服役セシムヘシ但料程ノ標準ハ内務大臣ノ認可ヲ受テヘシ

第十八條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

一月一日 元始 祭

孝明天皇祭 紀 元 節

春季皇靈祭 神武天皇祭

秋季皇靈祭 神嘗祭
天皇節 新嘗祭

十二月三十一日

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日免役ス

第十九條 無定役囚ニシテ監獄内ニ於テ自ラ作業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準スルコトヲ得

第二十條 懲治人ニハ毎日五時以内農業若クハ工藝ヲ教ヘカ作セシムヘシ

第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ仍ホ定役囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ其中ニ就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別スヘシ

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ヲ十分シテ其六ヲ與ヘ其餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ハ工錢モ亦之ニ準ス

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ典獄之ヲ領置スヘシ

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄懲罰ノ用ニ充ツ刑死者死亡者ヲ領置貨物ニシテ受クヘキ者ナキトキモ亦同シ

第二十五條 囚人及懲治人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充ツト請フトキハ典獄其事ヲ取亂シテ之ヲ許可スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘシ

第二十六條 囚人及懲治人ノ衣服臥具ハ之ヲ貸與ス但拘留囚ハ自衣ヲ着スルコトヲ得

第二十七條 刑事被告人ノ衣服ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス亦貧ニシテ衣類ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第二十八條 囚人及懲治人一人一日ノ食糧

一 下白米十分ノ四

一 麥 十分ノ六

一 同

一 同

一 茶

七合乃至八合

五合乃至六合

四合

三合

金壹錢以下

最モ強キ作業ニ服スル者

作業ニ服スル者

作業ニ服セサル者

十歳未滿ノ幼者

地方ノ便宜ニ依リ粟稗黍等ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得又麥粟稗黍等ニ乏シキ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ下白米ノミヲ給スルコトヲ得

刑事被告人モ亦前項ニ準ス但自費ヲ以テ食物ヲ購求セント請フトキハ之ヲ許ス

第二十九條 定役ニ服スル男囚ノ髮ハ常ニ之ヲ短縮シ髭鬚ハ常ニ剃除セシム

定役ニ服スル女囚梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルコトヲ許サス

第三十條 囚人及懲治人ニハ教諭師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第三十一條 囚人十六歳未滿ノ者及懲治人ニハ毎日四時以内讀書習字算術ヲ教フヘシ

第三十二條 囚人懲治人及刑事被告人現行人法律命令書ヲ看ント請フトキハ之ヲ許ス

囚人及懲治人書籍ヲ看ント請フトキハ修身宗教教育及營業ニ必要ナルモノニ限り之ヲ許ス

刑事被告人書籍ヲ看ント請フトキハ總テ之ヲ許ス但領置外ノ書籍ハ當該裁判官ノ承認ヲ經ヘキモノトス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前二項ノ例ニアラス

第三十三條 囚人其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ一箇月ニ一次懲治人ハ一箇月ニ二次トシ共ニ一週ニ過グルコトヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ典獄ヲ於テ之ヲ必要ト認メタルトキハ此限ニアラス

第三十四條 囚人及懲治人ノ發スル信書又ハ外人ヨリ送リ來ル信書ハ典獄之ヲ檢閲スルシ若シ書中不正不良ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨クルモノト認ムルトキハ之ヲ發賄休與スルコトヲ許サス但刑事被告人ニ係ル信

書ハ總テ當該裁判官ノ檢閱ヲ經ヘキモノトス

第三十五條 囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄ノ立會ヲ以テ之ヲ許スヘシ但典獄ニ於テ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ之ヲ許サルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者ハ裁判官渡アル迄辨護人ヲ除クノ外其現在地ノ裁判所長ノ允許ヲ受ケヘク密室監禁者ハ當該裁判官ノ允許ヲ受ケヘシ

第三十六條 囚人懲治人及刑事被告人疾病ニ罹ルトキハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ治療セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 囚人懲治人及刑事被告人死亡シタルトキハ典獄看守長醫師ノ立會ヲ以テ之ヲ檢視シ監署ニ於テ速ニ其本籍ニ通知スベシ其遺骸ハ親屬若クハ故舊ノ之ヲ請フ者ニ下付ス但死亡後二十四時以内ニ在テ其下付ヲ請フ者無キトキハ監署ニ於テ之ヲ假葬シ其姓名ヲ記シタル木榜ヲ立ツヘシ

刑死者ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ五分時ヲ過サレハ其遺骸ヲ絞架ヨリ解下シ之ヲ埋葬シ若クハ下付スルコトヲ許サス

第三十八條 刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但書類書籍當該裁判官ノ檢閱ヲ受ケルヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ他物ニ於テモ亦同シ新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニアラス

第三十九條 囚人及懲治人ニハ現行ノ法律命令書並ニ書籍用紙印紙郵便切手貨幣及內務大臣ニ於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サス但書籍ハ第三十二條ニ記載シタル制限ニ從フ

第四十條 囚人獄則ヲ遵守シ作業ニ勉勵シ且改悔ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ賞譽セシ者ニハ之ヲ交スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫著セシムヘシ

賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ憑據ト爲スコトヲ得

第四十一條 賞表ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別シテ尋常囚人ト別異シ賞表ノ多寡ニ應シテ優遇ヲ爲スヘシ

第四十二條 囚人獄則ヲ犯ズトキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時間坐作ノ後ヲ課ス

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

三 閉室 閉室ニ入レ一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内閉室ハ五晝夜以内トス

第四十三條 囚人十六歳未滿ノ者及懲治人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨居ハ晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減ス

獨居 晝夜以內減食ハ三日以内トス

第四十四條 減食若クハ閉室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎日之ヲ視察セシメ醫師ニ於テ身體ニ妨アルヲ證スルトキハ處罰ヲ中止スヘシ

第四十五條 無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ逃走シ又ハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ一月以上二年以下兩脚又ハ一脚ニ鎖ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鎖ニ貫キ腰間ニ線帶セシメ線帶ノ所ニ下鍵ス其監房ニ在ルモ晝間ハ仍ホ水之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス九ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス若シ外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

第四十六條 施獄中ノ者病ニ罹リ醫師ノ診斷ニ依リ鎖ノ解除ヲ必要トスルトキハ一時之ヲ解除スルコトヲ得但解除中經過セシ日數ハ施獄期限ニ算入セス

第四十七條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受ケタルトキハ其情狀ニ因リ賞表一箇又ハ數箇ヲ褫奪スルコトアルヘシ

第四十八條 獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレタル者改悔ノ狀著シキトキハ處罰中ト雖モ之ヲ免スルコトヲ得

第四十九條 免幽閉ヲ受ケタル流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以内之ヲ拘置スルコトヲ得

第五十條 囚人懲治人及刑事被告人司獄官吏ノ處置ニ對シ苦情ヲ訴ヘントスルトキハ第四條ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第五十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ内務大臣之ヲ定ム

第五十二條 此規則ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ適用セサルモノトス

第三十六章 陸軍刑法

布告明治十四年十二月二日 陸軍刑法別冊ノ通改定シ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
右奉勅旨布告候事

陸軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスニテ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未ダ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第三條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長官士官下士諸卒ヲ謂フ

第四條 軍屬ト稱スルハ陸軍出仕ノ文官其他總テ宣蕃若クハ讀法ノ式ニ由リ陸軍ニ從事スル者ヲ謂フ

第五條 司令官ト稱スルハ一軍一團其他一部隊ト雖モ總テ其司令ニ任スル者ヲ謂フ

第六條 哨兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ

第七章 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可キ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ上等卒及ヒ上等卒ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス

第八條 將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

第九條 軍屬及ヒ陸軍所屬ノ諸生徒ハ總テ軍人ニ同シ

第十條 親屬ト稱スルハ普通刑法第四百十四條第四百十五條ニ記載スル者ヲ謂フ

第十一條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷スルコトヲ得ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第十二條 第八十條第八十一條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第一項第九十五條第

百五條第四百十一條第四百十二條第四百十三條第四百十四條第四百十五條第四百十六條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍

人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス

第四百十七條第四百十七條第四百十八條第四百十九條第四百二十條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同ク論ス

第十三條 敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ第五十三條第五十四條第五十六條第五十七條第五十八條第

五十九條第六十條第六十一條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備

若クハ陰謀ニ止マル者ハ第六十二條第六十三條ニ照シテ處斷ス

第十四條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷スル者ハ普通刑法第三編第一章ニ照シ重キニ從テ處斷ス但シ

此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第二章 刑例

第十五條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十六條 左ニ掲グル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一 死刑

二 無期徒刑

- 三 有期徒刑
 - 四 無期流刑
 - 五 有期流刑
 - 六 重懲役
 - 七 輕懲役
 - 八 重禁獄
 - 九 輕禁獄
- 第十七條 左ニ掲グル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス
- 一 重禁錮
 - 二 輕禁錮

第十八條 左ニ掲グル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

- 一 剝奪公權
- 二 剝官
- 三 停止公權
- 四 禁治產
- 五 監視
- 六 沒收

第十九條 陸軍法務ニ於テ死刑ニ處スル者ハ皆之ヲ統綏ス

第二十條 死刑ハ陸軍卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス

軍中若クハ合圍ノ地ニ於テ特權ヲ有スル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フヲ得

第二十一條 徒刑ハ無期有期ヲ分タズ島地ニ發遣シ定役ニ服ス
有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

號ヲ開示シ若シクハ秘密ヲ要スル兵器彈藥ノ製法其他軍機事情ヲ漏洩スル者ハ死刑ニ處ス

第五十五條 軍人敵國ヲ受クルノ地ニ於テ其司令官ヲ襲シ敵ニ降ラシメントシテ號ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第五十六條 軍人敵前ニ在テ隊兵ノ潰走ヲ誘起シ若クハ其連絡集合ヲ妨害スル者ハ死刑ニ處ス

第五十七條 軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募ル者ハ死刑ニ處ス

第五十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル家屋船舶及ヒ輜糧兵器彈藥其他軍需ノ物品若クハ戰馬ノ用

ニ供ス可キ道路橋梁森林派車電線ヲ毀壞シ若クハ火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥其他軍需物品ノ缺乏ヲ致ス者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ謾罵詈訕ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第六十一條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ及ヒ劫奪スル者

ハ死刑ニ處ス

敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通スル者亦同シ

第六十二條 軍人前數條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲ス者ハ各本條ニ照

シ一等ヲ減ス

其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ二等ヲ減ス

第六十三條 軍人前數條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサ

ル前ニ於テ自首スル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十四條 軍人情ヲ知テ前數條ニ掲グル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸ス者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮

ニ處ス

第六十五條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加

ス

第二章 抗命

第六十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シ若シハ服從セサル者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ陸軍合團ノ地ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
其他ノ地ニ在テハ二年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者敵前ニ在テハ皆死刑ニ處ス

軍中若クハ陸軍合團ノ地ニ在テハ首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ首魁ハ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十八條 軍人暴行ヲ爲スニ當リ上官之ヲ制止シ其命ニ從ハサル者ハ二年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三章 擅權

第六十九條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受テ仍ホ戰闘ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス

第七十條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ已ムヲ得サルノ理由ナクシテ擅ニ兵隊ヲ進退スル者ハ死刑ニ處ス

第七十一條 司令官擅ニ人ヲ募リ部伍ニ充ル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第四章 廢職

第七十二條 要塞司令官若クハ要塞特命司令官其職ヲ可キ所ヲ盡サスシテ敵ニ降り若クハ所轄ノ地ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス

堡砦ノ地ニ於テ其司令官之ヲ犯ス者亦同シ

第七十三條 司令官野戰ノ時ニ在テ隊兵ヲ率ヒ敵ニ降ル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

若シ其意ヲ可キ所ヲ盡サスシテ降ル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 將校敵前ニ在テ盡ス可キ所ヲ盡サスシテ遁走スル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡サル者ハ三月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第五章 暴行

第七十六條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十八條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯ス者ハ各一等ヲ加フ

第七十九條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第八十條 軍人哨兵ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ヲ有期流刑ニ處ス

第八十一條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ犯人ハ有期流刑ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ死刑ニ處ス

第八十二條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ重禁錮ニ處ス

第八十三條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ犯人ハ重禁錮ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ有期流刑ニ處ス

第八十四條 軍人多眾相集リ暴行ヲ爲ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十五條 軍人多眾結合シテ相闘毆スル者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十六條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助クル者ハ重禁錮ニ處ス

第八十七條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪スル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷スル者ハ死刑ニ處ス

第八十八條 軍人軍用ノ工廠船舶及ヒ軍需ノ物品ヲ貯藏スル倉庫若クハ現ニ戰鬥ノ用ニ供スル家屋糧秣橋梁汽車電線ヲ毀壞スル者ハ重懲役ニ處シ火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第八十九條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ火ヲ放テ露積スル所ノ兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ重懲役ニ處ス

第九十條 軍人兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ棄毀シ若クハ軍用ノ馬匹ヲ殺傷スル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其官給ニ係ル物品ヲ棄毀スル者ハ十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十一條 軍人操練ノ際若クハ禮砲號砲ヲ發スル時瓦石等ヲ裝填シテ發射スル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

哨兵衛兵妄リニ銃砲ヲ發スル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條第一項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第九十二條 軍人職權ヲ妄用シテ人ヲ監禁制縛シ其他陵虐ノ所爲アル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第六章 侮辱

第九十三條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮辱スル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二十二條 流刑ハ無期有期ヲ分ク島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十三條 懲役ハ懲役場ニ入レ定役ニ服ス

重懲役ハ九年以上十一年以下ノ重懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁獄ハ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下ノ重禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十五條 禁錮ハ禁錮場ニ入レ重禁錮ハ定服ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分ク十一月以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十六條 普通刑法第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十二條第二十五條ニ記載スル所ノ主刑處分ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第二十七條 陸軍法術ニ於テ普通刑法ニ依リ罰金科料ニ處スル者限内納完セズ禁錮拘留ニ換フル時ハ更ニ裁判ヲ用ヒス理事ノ求メニ因リ裁判長之ヲ命ス

第二十八條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條ニ記載スル所ノ權ヲ剝奪ス

第二十九條 重罪ノ刑ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十條 剝官ハ宣告シテ將校ノ官職ヲ褫奪ス

下士上等卒軍屬其他ノ官吏此刑法ノ罪ヲ犯シ將校ニ在テ剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第三十一條 禁錮ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フヲ停止ス

第三十二條 普通刑法第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十三條第四十四條ニ記載スル所ノ附加刑處分ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第三十三條 下士上等卒ハ此刑法及ヒ普通刑法若クハ海軍刑法ニ依リ禁錮ニ處シ官職ヲ失フト雖モ兵役ヲ免セス其失フ所ノ官職ハ主刑終ルノ日ヨリ六月ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ之ヲ復スルヲ得

第三十四條 下士階卒ハ此刑法及普通刑法海軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス

第三十五條 普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條ニ記載スル所ノ刑期計算假出獄期滿免除復権ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第三章 加減例

第三十六條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ掲グル所ノ例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第三十七條 第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條第一百零一條第一百零二條第一百零三條第一百零四條第一百零五條第一百零六條第一百零七條第一百零八條第一百零九條第一百一十條第一百一十一條第一百一十二條第一百一十三條第一百一十四條第一百一十五條第一百一十六條第一百一十七條第一百一十八條第一百一十九條第一百二十條第一百二十一條第一百二十二條第一百二十三條第一百二十四條第一百二十五條第一百二十六條第一百二十七條第一百二十八條第一百二十九條第一百三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

五 輕懲役

第三十八條 第二編第一章第二章第三章第四章第七章及第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

五 輕懲役

第三十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重懲役ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重懲役ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第四十條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ判官ヲ附加ス

第四十一條 禁錮ニ該ル者加重ス可キ時ハ其刑期四分の一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス其減輕ス可キ時亦四分の一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス

禁錮ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スコトヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス

若シ減輕シテ十日以下ニ處スル時ハ重懲役ト雖モ定後ニ服セス

第四十二條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル者ハ之ヲ除棄ス

第四十三條 判官ハ其主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス但十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四十四條 普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

第九十九條ニ記載スル所ノ不諭罪減輕再犯加重加減順序ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス但此刑法ニ特別アル者ハ此限ニ在ラス

第四十五條 再犯加重ハ再ヒ此刑法ノ罪ヲ犯スニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第四章 數罪俱發

第四十六條 二罪以上俱ニ發スル時若クハ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經餘罪後ニ發スル時ハ普通刑法第百條第百零一條第百零二條第百零三條ニ記載スル所ノ數罪俱發ノ例ヲ適用ス但此刑法判官ヲ附加セサル禁錮ノ罪ト判官ヲ附加スル禁錮及海軍刑法判官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ノ罪ト俱ニ發シ判官ヲ附加セサル禁錮ニ處スル時ト雖モ將校ハ仍ホ判官ヲ附加シ下士上等卒軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第五章 數人共犯

第四十七條 軍人二人以上共ニ此刑法ノ罪ヲ犯ス時ハ普通刑法第四百條第五百條第六條第七條第八條第九條第十條ニ記載スル所ノ數人共犯ノ例ヲ適用ス但第六十七條第七十七條第七十八條第八十一條第八十三條第八十四條第八十五條第九十九條第一百二十五條ニ掲グル所ノ罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

第四十八條 軍人ト軍人ト非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第十二條第十三條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在ラス

第六章 未遂犯罪

第四十九條 此刑法ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ普通刑法第四百一一條第四百二條第四百三條ニ記載スル所ノ未遂犯罪ノ例ヲ適用ス

第二章 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十條 軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲ス者首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事スル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ處ス諸般ノ職務ヲ司リ若クハ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給スル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

附和シテ其事ニ服行スル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十一條 軍人反亂ヲ爲スト謀リ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠スル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十二條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故テニ鎮撫ノ官吏ヲ殺ス者ハ死刑ニ處ス

第五十三條 軍人敵ヲ利スル爲メ部下ノ兵隊若クハ軍事ニ關スル土地家屋船舶及ヒ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス

第五十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要隘險夷ヲ指示シ若クハ攻守ノ用ニ供ス可キ圖書及ヒ暗號記

上官ノ公務ヲ行フ時ニ於テスル者ハ一等ヲ加フ

第九十四條 軍人交書圖畫ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會ヒ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十五條 軍人哨兵ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十六條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ罵詈若クハ侮慢スル者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七章 違令

第九十七條 軍人哨兵ニ對シ哨令ヲ犯ス者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰台圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十八條 軍人擅ニ哨令ヲ變更シ若クハ之ニ違フ者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰台圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十九條 哨兵擅ニ其守地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰台圍ノ地ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百條 哨兵睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

軍中若クハ臨戰台圍ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百一條 軍人現ニ軍務ニ服シ擅ニ其地ヲ離ル、者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
 其他ノ地ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
 長官之ヲ犯ス時ハ各一等ヲ加フ
 第二百二條 軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ急呼ノ號報アル時故ナク來會セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
 第二百三條 軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ兵器彈藥軍糧ノ運搬支給ヲ掌リ故ナク其缺之ヲ致ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
 第二百四條 司令官命令ニ從フコトヲ得サル時部署若クハ其命セラル、所ノ事ヲ變更シ直チニ之ヲ申報セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス
 第二百五條 軍人秘密ヲ要スル圖書兵器彈藥ノ製法其他軍事ニ關スル機密ヲ漏洩スル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
 第二百六條 軍人允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レ十日ヲ過ル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス
 第二百七條 徵兵故ナク徵集ノ期ニ後レ十日ヲ過ル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過ル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス
 除休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者故ナク召集ノ期ニ後レ十日ヲ過ル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過ル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス
 第二百八條 軍人前條ノ罪ヲ犯サレムル者ハ數人共犯ノ例ニ照シテ處斷ス
 第二百九條 軍人反亂ノ罪ヲ犯サントスル者アルヲ知テ申告セサル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百十條 軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シ又ハ講談論說シ若クハ文書ヲ以テ之ヲ廣告スル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス
 第一百一條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ造言飛語ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
 第一百十二條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
 看守護送者之ヲ犯ス時ハ重禁錮ニ處ス
 第一百十三條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具ヲ給與シ若クハ逃走ノ方法ヲ指示スル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
 看守護送者之ヲ犯ス時ハ輕禁錮ニ處ス
 第一百十四條 軍人前二條ニ揭ケル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
 第一百十五條 軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致ス者ハ十一月以下ノ輕禁錮ニ處ス
 第一百十六條 軍人逃走ノ俘虜降人タルヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス
 第八章 逃亡
 第一百七條 軍人職ニ職後若クハ屯營本隊ヲ離レ六日ヲ過ル者ハ逃亡ト爲シ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス新兵入營三月ニ滿サル者ハ一等ヲ減ス
 戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ三日ヲ過ル者ハ逃亡ト爲シ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
 第一百十八條 軍人敵前ニ在テ職ニ職後若クハ屯營本隊ヲ離ル、者ハ逃亡ト爲シ輕懲役ニ處ス
 第一百十九條 軍人四人以上共ニ逃亡ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テハ輕懲役ニ處シ敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

其他ノ犯人ハ第一百七十七條第百十八條ニ照シテ處斷ス

第二百二十條 軍人敵ニ奔ル者ハ死刑ニ處ス

第九章 詐偽

第二百二十一條 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付スル者ハ輕微後ニ處シ因テ死ニ致ス者ハ有期徒刑ニ處ス

第二百二十二條 軍人斥候偵察ノ命ヲ受ケ詐偽ノ報告ヲ爲シ若クハ傳令使命令ヲ詐リ傳フル者ハ五月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス將校ハ剝官ヲ附加ス

第二百二十三條 陸軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷疾及ヒ身體強弱ノ偽證ヲ爲ス者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第二百二十四條 軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シ兵役ヲ免ル、トテ圖ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者戰時ニ於テ前項ノ所爲ヲ以テ召集ヲ免ル、トテ圖ル者亦同シ

第十章 結黨

第二百二十五條 軍人黨ヲ結ビ軍事ニ關スル規則命令ノ施行ヲ妨ケ若クハ之ヲ妨ケント謀リ其他服従法ニ違フ者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二月以上一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二百二十六條 軍人前條ニ記載スル所爲ヲ首唱教唆シ未タ黨ヲ爲スニ至ラサルトキ其首唱教唆者ノ刑ハ前條首魁ノ刑ニ一等若クハ二等ヲ減シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三十七章 陸軍治罪法

法律明治二十一年十月陸軍治罪法ノ改正ニ裁可シ茲之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判及ヒ違警罪ノ正式裁判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス

陸軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サズ但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限リ之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ

海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第四條 長官ト稱スルハ軍團長師團長軍法會議ヲ管轄スル旅團長及ヒ合團ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第四百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條 普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條第百條第百一條第百三十二條第百三十三條第百四十六條第百五十六條第百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條 軍中若クハ臨戰合團ノ地ニ於テハ長官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章 軍法會議ノ構成

第九條 各師團ニハ軍法會議一箇ヲ設ク

東京ニ高等軍法會議一箇ヲ設ク

軍中ニ於テハ軍團師團混成旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合團ノ地ニモ亦軍法會議ヲ設ク

第十條 軍法會議ハ判士長判士理事若クハ理事候補及ヒ錄事ヲ以テ構成ス

第十一條 判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ據リ他ノ軍法會議ニ於テハ第二表ニ據リ將校ヲ以テ之ヲ充ツ軍中若クハ臨戰合團ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スルコトヲ得

第三十七章 陸軍治罪法

第一表				第二表			
判士	長	判	士	判士	長	判	士
大將	中將	少將	大佐	大佐若々ハ中佐	佐官	佐官	佐官
大尉	中尉	少尉	大尉若々ハ中尉	大尉若々ハ中尉	大尉若々ハ中尉	大尉若々ハ中尉	大尉若々ハ中尉
四名	四名	四名	四名	四名	四名	四名	四名
陸海軍大將	陸海軍中將	陸海軍少將	陸海軍大佐	陸海軍大佐	陸海軍大佐	陸海軍大佐	陸海軍大佐

第十二條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ陸軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキハ高等軍法會議ニ於テハ陸軍大臣之ヲ命シ師管

旅管ノ軍法會議ニ於テハ師團長其部下中ヨリ之ヲ命ス

師管旅管ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲スヲ要スルトキハ師團長ノ上申ニ依リ陸軍大臣之

ヲ命ス

第十三條 軍中若々ハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官其部下ノ將校中ヨリ判士長判士ヲ命ス

第十四條 軍中若々ハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官專任判士ヲ命スルコトヲ得又部下ノ下士ヲ以テ錄事ノ職

務ヲ行ハシムルコトヲ得

合圍ノ地ニ於テハ長官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若々ハ理事ニ充ニ判任官ヲ以テ錄事ニ充ルコトヲ得

第十五條 判士長判士理事左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコトヲ得ス

一 被告人被害者及其配偶者ノ親屬

二 被告人被害者ノ後見人

三 告發人被害者及ヒ證據ヲ陳述シタル者

第十六條 原裁判ニ從事シタル判士長判士理事ハ再議及ヒ再審ノ裁判ニ列スルコトヲ得ス但關係裁判ニ對スル

再審ニ於テハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第三項ノ場合ニ於テ陸軍大臣ハ判士長判士ヲ命セスレテ被告人ヲ他ノ師管旅管ノ軍法

會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條 師管旅管ノ軍法會議ハ其師管旅管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト爲シ所屬軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第十九條 軍人管轄地外ニ於テ犯罪ヲ犯シタルトキハ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得

第二十條 高等軍法會議ハ判官若々ハ其同等軍人ノ犯罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲ爲ス但他ノ軍法會議ニ

於テ爲シタル關係裁判ニ對スル再審ハ此限ニ在ラス

第二十一條 軍團師團混成旅團ノ軍法會議ハ其團所屬佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十二條 合團ノ地ノ軍法會議ハ總テ其地所在佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十三條 臨戰若クハ合團ノ地ノ軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖モ陸軍刑法ヲ以テ論スヘキ罪ヲ犯シタルトキハ其審判ヲ爲ス可シ

第二十四條 軍中若クハ臨戰合團ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル軍法會議ハ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ外被告人ノ身分ニ拘ハラズ其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第二十五條 伴虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十六條 軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官在役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス在官在役中ノ犯罪ト雖モ免官免役ノ後告訴發アツタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ附ス

第二十七條 軍人二人以上共ニ罪ヲ犯シ若クハ附帶犯ニシテ各其管轄ヲ異ニスルトキハ先ニ審判ニ着手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍軍人ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキ亦同シ

第二十八條 重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帶シ若クハ重罪輕罪トシテ審判ニ着手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十九條 軍中若クハ合團ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルトキハ其軍法會議ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲ス

第四章 陸軍檢察

第三十條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ捜査シ證據ヲ收集ス

第三十一條 陸軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 憲兵ノ將校下士
- 二 師團副官

三旅團副官

四警備隊司令官

第三十二條 各所管ノ長官團隊ノ長タル將校大隊區司令官監獄長衛兵司令ハ各其管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ陸軍檢察官ニ其處分ヲ委ス可シ

第三十三條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令又ハ豫審判事檢察司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得

第三十四條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發スルコトヲ得

第三十五條 陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ第三十三條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發ス可シ

第三十六條 陸軍檢察官憲兵卒司法警察官巡查ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第三十七條 何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得

第三十八條 憲兵卒巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ引致ス可シ

第三十九條 陸軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ

第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又

ハ其處分ヲ陸軍檢察官ニ委スルコトヲ得

第四十條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其檢證ノ處分ヲ爲ス
トキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十一條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ前
款條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十二條 司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證ノ處分
ヲ爲シ調書ヲ作り陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ送致ス可
シ

第四十三條 檢察判事檢察司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴發覺ヲ受ケタルトキハ陸軍檢察官若クハ
被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ交付ス可シ

第四十四條 告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更セシメテ請求スルコトヲ得

第四十五條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官檢證ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告事件ニ證據物
件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一 重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申シ違警罪ト認ムルトキハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ交付ス可
シ

二 懲罰管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ海軍
ノ軍人ナルトキハ海軍軍法會議ノ至理ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致ス可
シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ

三 高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ナルトキハ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第五章 審問

第四十六條 陸軍大臣又ハ長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ
一 其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若クハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ル

可キモノシテ審問ヲ要セスト認ムルモノ及ヒ違警罪ノ正式裁判ニ附ス可キモノハ直ニ判決ノ命令ヲ下
ス可シ

二 審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ理事ニ下付ス可シ

第四十七條 理事審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ
被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問ス可シ

罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ代人ヲ出廷セシムルコトヲ得

第四十八條 理事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第四十九條 理事ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕罪以下ノ刑ニ該ル可キモノト
認ムル被告人ニシテ罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐れアルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的ヲ遂ケ若クハ脅迫
罪ヲ犯シ其手段ヲ實行スルノ恐れアルトキハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第五十條 勾引狀管轄地外ト雖モ之ヲ執行スルコトヲ得

第五十一條 理事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケ可キ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍檢察官若クハ
理事檢察判事司法警察官ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得又陸軍檢察官理事司法警察官召喚狀ノ送達勾引狀ノ
執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十二條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ四十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ
要スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十三條 理事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應ズル能ハサ
ルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ
理事陸軍檢察官若クハ檢察判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十四條 理事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ陸軍檢察官及ヒ各控訴院ノ檢事長ニ人相
書ヲ送り其逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第五十五條 理事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認メタルトキハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ヌ又ハ收禁ヲ要セサルモノト認メタルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第五十六條 勾引狀收禁狀ハ憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム可シ但憲兵ヲ置カサル地ニ於テハ衛兵ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

勾引狀ハ受ケ可キ被告人營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

被告人海軍艦船營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

憲兵卒衛兵勾引狀ヲ執行スルニ當リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタルトキハ其地ノ

戸長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索シ其調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求ムルニ暇アラズ若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 理事ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得

若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍檢察官若クハ理事豫審判事司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十八條

理事ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告事件ニ關係アル

往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ

本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十九條 理事ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

證人皇族若クハ勅任官ナルトキハ理事其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ

證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應ズル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ理事其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人遠隔ノ地ニ在ルトキハ第五十七條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得ス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クコトヲ得

一 被害者

二 被害者及ヒ被告人ノ親屬

三 被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受ケル者

四 被害者及ヒ被告人ノ雇人

五 現ニ陳述ヲ爲スコキ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ケ證據充分ナラサルニ因リ免訴ノ宣告ヲ受ケケル者

六 重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ附セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移入ノ宣告ヲ受ケケル者及ヒ重

罪ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ附セラレタル者

七 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者

八 十六歳未満ノ者

九 智覺精神ノ不充ナル者

十 瘖啞者

第六十一條 理事被告人證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ録事之

ニ立會ヒ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ録取シ被告人證人事實參考人ニ讀示ス可シ

理事ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヲ問ヒ陳述者ヲシテ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印

スルコト能ハサルトキハ録事ヲシテ其旨ヲ記セシム可シ

急遽ノ際若クハ事故アリテ録事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會ナクシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十二條

理事犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因

リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但シ第六十條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲ス

コトヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト

能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名捺印ス可シ

第六十三條 理事ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲スコトヲ宣讀セシム可シ

第六十四條

理事犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因

リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但シ第六十條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲ス

コトヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト

能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名捺印ス可シ

第六十三條 理事ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲スコトヲ宣讀セシム可シ

理事ハ證人通事鑑定人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ
録事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ
宣誓書ハ訴訟書類ニ添ハ置ク可シ

第六十四條 理事ハ證人通事事實參考人及ヒ參考人爲メ鑑定ヲ命シタル者疾病其他正當ノ事故ヲ證
明セスシテ呼出ニ應ヒサルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應ヒサルトキハ
更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ若シ五日以内ニ正當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサルコトヲ證明シタルト
キ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ

前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第六十五條 理事ハ證人鑑定人宣誓書ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキハ證人ハ普通刑法第百
八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第百七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

證人トシテ呼出シタル醫師藥商釋藝代官人辯護人公證人神官僧侶其身分職業ニ關スル秘密ノ事件ニ因リ
委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラス

第六十六條 理事ハ通事宣誓書ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ肯セサルトキハ又ハ事實參考人爲メ陳述鑑定ヲ
命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第六十七條 理事ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ
得

證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十四條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第六十八條 證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考人爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ニ科シタル罰金ヲ納完セシ
若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ依リ理事之ヲ爲ス可シ

第六十九條 理事ハ被告事件ニ關スル調書説明ノ爲メ其調書ヲ作りタル陸軍檢察官司法警察官其他ノ官吏
ヲ呼出ス可トヲ得

第七十條 理事審問ニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺察シタルトキハ直ニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帶

犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ

第七十一條 軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證據物件ヲ添ヘ其共犯事件ノ管轄スル軍法會議所在
ノ地ノ檢察官ニ送致ス可シ

第七十二條 理事ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ責付スルコトヲ得但營内居住ノ者ハ責付スルノ限ニ在ラ
ス

第七十三條 理事審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審問ヲ終リ若クハ判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ
左ノ手續ヲ爲ス可シ
一審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作り訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議
ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ

二裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大
臣又ハ長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同シ

第七十四條 陸軍大臣又ハ長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認メタルトキハ
更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章 判決

第七十五條 軍法會議ハ判士長判士理事錄事列席シテ之ヲ開ク可シ

第七十六條 判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ未ムルコトヲ得

第七十七條 判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令狀ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲ス可トヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其處分ヲ爲サシメ
調書及ヒ證據文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ但其犯人被告人ナルトキハ本案
事件ト共ニ直ニ判決ヲ爲ス可シ

第七十八條 判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人鑑定人通事ヲ要シ若クハ調書説明ノ爲メ官吏ノ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第七十九條 證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命ヒラレタル者疾病其他正當ノ事故ナクシテ呼出ニ應セサルトキハ理事ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ科ス可シ

一 違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料
二 輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第八十條 判士長ハ證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ
理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條 判決ノ爲メ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

共犯附帯犯若クハ餘罪ヲ覺察シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ理事ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ
但其共犯者附帯犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十二條 被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キコトナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ゲ被告人ヲ退廷セシノ其判決ヲ爲ス可シ

第八十三條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セズ若クハ其逃走ニ由リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷セザルトキハ關照裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十四條 數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中觀照シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 理事ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ説明ス可シ
會議ノ判決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得

其判決法律ニ違ヒ再議スヘキ理由アリト認ムルトキハ其判決ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十六條 判決書ハ理事左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士録事ト共ニ署名捺印シ訴訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

一 判決ノ理由
二 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證憑及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條
三 無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ナリシコト若クハ被告事件罪ヲナラサルコト若クハ犯罪ノ證憑備ラサルコト

四 免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五 管轄違ノ判決書ニハ其旨
六 私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七 被告人ノ官位勲章隊號職名氏名族籍年齢住所判決ノ年月日
第八十七條 左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添ヘ長官ヨリ陸軍大臣ニ具申シ其他ハ長官ニ於テ裁判宣告命令ヲ下ス可シ

一 死刑ニ該リタルトキ
二 佐官及ヒ其同等軍人重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ
三 尉官及ヒ其同等軍人重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第八十八條 陸軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官及ヒ其同等軍人ノ重罪輕罪ニ該リ若クハ前條ニ記載シタルモノニ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ他ノ軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ

第八十九條 軍中若クハ陸軍合團ノ地ニ於テハ長官第八十七條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十條 長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十一條 陸軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシム可シ

第九十二條 裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士理事錄事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

第九十三條 禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ宣告アリタル者禁錮以上ノ刑ニ該ルトキハ理事速捕狀ヲ發ス可シ

第九十四條 被告人開席ノマ、宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ揭示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第七節 再審

第九十五條 陸軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

第九十六條 軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ル、モノアルトキハ理事及ヒ被告人ヨリ再審ノ申請ヲ爲スコトヲ得被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

一人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認マラレタル者犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ

二同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ

三公正ノ證據ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ

四既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ

五被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ

六公正ノ證據ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第九十七條 陸軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

長官其事實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第九十八條 開席裁判ニテ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ再審ノ申請ヲ爲スコトヲ得但裁判宣告アリタルコトヲ知リ若クハ捕ニ就キ若クハ自首シタルトキハ重罪ノ刑ニ於テハ十日

禁錮ノ刑ニ於テハ三日内ニ非ヒハ申請ヲ爲スコトヲ得ス

罰金以下ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其住所ニ宣告書ヲ送達アリタル日ヨリ三日内ニ再審ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 再審ノ申請ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲ス可シ高等軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ナルトキハ陸軍大臣ニ其申請ヲ爲ス可シ

理事其申請ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證據書類ヲ添フ可シ

被告人若クハ其親屬其申請ヲ爲ストキハ其理由書ヲ理事ニ出シ理事意見書ヲ添フ可シ

長官再審ノ申請ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ陸軍大臣ニ具申ス可シ開席裁判ニ對スル申請ナルトキハ直ニ再審ヲ爲サシム可シ

陸軍大臣再審ノ申請ヲ受ケ若クハ長官ヨリ再審ノ具申ヲ受ケタルトキハ其再審ヲ爲サシム可シ

第一百條 陸軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキハ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ

第一百條 再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第八章 復権

第二百條 復権ノ願ハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ヲ經過シタル後刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヨリ陸軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

其復権願書ニ通テ作リ本人署名捺印シ左ニ記載シタル書類ヲ添テ郡區長ニ出シ郡區長願人ノ品行其他必要ノ調査ヲ爲シ地方長官ニ出シ其長官ハ之ニ意見書ヲ添テ願人住居ノ地ヲ管轄スル長官ニ出ス可シ

一 裁判宣告書ノ謄本

二 主刑ノ満期若クハ特赦若クハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類

三 假出獄及ヒ假リニ監視ヲ免ヒラレタルコトアルトキハ其證書

四 賠償ノ義務ヲ免カレタル證書

五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第二百三條 長官前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ之ヲ理事ニ付シ理事更ニ必要ノ調査ヲ爲シ意見書ヲ作リ一切ノ書類ヲ添テ長官ニ出シ長官ハ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第二百四條 陸軍大臣復権ノ願ニ關スル書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第二百五條 復権ノ願裁可アリタルトキハ陸軍大臣裁可狀ヲ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ地方長官ヲ經テ本人ニ傳達セシム可シ

理事ハ裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テハ之ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

第二百六條 復権ノ願棄却セラレタルトキハ陸軍大臣願書ニ其旨ヲ記シタル書面ヲ附シ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ前條第一項ノ処分ヲ爲サシム可シ

復権ノ願棄却セラレタルトキハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非レハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 特赦

第二百七條 特赦ノ申請ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官又ハ理事若クハ司獄官ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ陸軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

理事其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ之ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

司獄官其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ理事ノ意見書ヲ徴シ自己ノ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第二百八條 陸軍大臣前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

第二百九條 陸軍大臣ハ刑ノ宣告アリタル後何時ニテモ特赦ノ上奏ヲ爲スコトヲ得

第二百十條 特赦ノ申請アルモ死刑ヲ除ク外ハ刑ノ執行ヲ停止セス

第二百十一條 特赦ノ上奏裁可アリタルトキハ陸軍大臣特赦狀ヲ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ之ヲ本人ニ傳達セシム可シ高等軍法會議ノ理事ノ申請ニ係ルモノハ其理事ヲシテ之ヲ本人ニ傳達セシム可シ

理事ハ特赦ノ裁可アリタル旨ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

熊野郡	竹野郡	中野郡	與謝郡	加佐郡	丹後國	何鹿郡	天田郡	船井郡	北桑田郡	南桑田郡	丹波國	相樂郡	綴喜郡	久世郡	宇治郡	紀伊郡	乙訓郡	葛野郡	愛宕郡	下京區
石川郡	河內國	日根郡	南泉郡	大鳥市	堺市	和泉國	能勢郡	豐島郡	島下郡	島上郡	住吉郡	東成郡	西成郡	北成區	南成區	西成區	東成區	攝津國	大阪府	
都築郡	橋本郡	久良岐郡	橫濱市	武藏國	神奈川縣	讚良郡	交野郡	赤田郡	澁川郡	若江郡	河內郡	高安郡	丹北郡	志紀郡	丹南郡	安宿郡	古市郡	八上郡	錦部郡	
姫路市	播磨國	有馬郡	川邊郡	菟原郡	武庫郡	八戸市	神戶市	攝津國	兵庫縣	津久井郡	愛甲郡	足柄上郡	足柄下郡	海綾郡	大住郡	高座郡	三倉郡	相模國		
朝來郡	養父郡	氣多郡	出石郡	美含郡	城崎郡	但馬國	赤穂郡	作樂郡	赤穂郡	揖西郡	揖東郡	神西郡	神東郡	飾西郡	飾東郡	印南郡	加古郡	加西郡	多可郡	美石郡
對馬國	石田郡	壹岐郡	壹岐郡	南松浦郡	北松浦郡	南高松郡	北高松郡	東彼杵郡	西彼杵郡	長崎市	肥前國	長崎縣	三原郡	津名郡	淡路國	多紀郡	氷上郡	丹波國	七美郡	
佐渡國	岩舟郡	西頸城郡	中頸城郡	東頸城郡	川羽郡	中魚沼郡	南魚沼郡	北魚沼郡	古志郡	三嶋郡	東蒲原郡	南蒲原郡	西蒲原郡	中蒲原郡	北蒲原郡	新瀉國	越後國	新瀉縣	上縣郡	下縣郡

南埼玉郡	北埼玉郡	男衾郡	榛澤郡	大里郡	那珂郡	賀美郡	兒玉郡	秩父郡	橫見郡	比企郡	高麗郡	入間郡	新座郡	北足立郡	武藏國	埼玉縣	羽茂郡	加茂郡	雜大郡		
山田郡	新田郡	那珂郡	佐波郡	北勢郡	利根郡	吾妻郡	碓氷郡	北甘樂郡	南甘樂郡	多胡郡	綠野郡	片岡郡	西群馬郡	南勢郡	東群馬郡	上野國	群馬縣	下總國	北葛飾郡		
夷隅郡	天羽郡	周准郡	望陀郡	武射郡	山邊郡	上植生郡	長柄郡	市原郡	上總國	匝瑳郡	海城郡	香取郡	南相馬郡	下植生郡	印旛郡	東葛飾郡	千葉縣	千葉縣	邑樂郡		
下總國	真壁郡	筑波郡	新治郡	河內郡	信太郡	行方郡	鹿島郡	多賀郡	久慈郡	那珂郡	西茨城郡	東茨城郡	水戸市	常陸國	茨城縣	長狹郡	朝夷郡	平房郡	安房國		
大和國	添上郡	奈良縣	梁田郡	足利郡	安蘇郡	那須郡	鹽谷郡	下都賀郡	芳賀郡	上都賀郡	河內郡	下野國	栃木縣	北相馬郡	猿島郡	西葛飾郡	豐田郡	岡田郡	結城郡		
朝明郡	三重郡	三原郡	桑名郡	員辨郡	津市	伊勢國	三重縣	吉野郡	宇智郡	忍海郡	葛下郡	葛上市郡	高市郡	十市郡	宇陀郡	式下郡	式上郡	平群郡	廣瀨郡	山邊郡	添下郡
愛知縣	南牟婁郡	北牟婁郡	紀伊國	英虞郡	志摩國	志摩縣	伊賀郡	名張郡	山田郡	阿拜郡	伊賀國	伊賀郡	飯高郡	飯野郡	飯高郡	一志郡	安濃郡	河曲郡	奄藝郡	鈴鹿郡	

尾張國 名古屋市	愛知郡	春日井郡	西春日井郡	丹羽郡	葉栗郡	中島郡	海東郡	海西郡	知多郡	三河國	碧海郡	幡豆郡	額田郡	西加茂郡	東加茂郡	北設樂郡	南設樂郡	寶飯郡	渥美郡	八名郡
靜岡縣	駿河國	靜岡市	駿東郡	富士郡	庵原郡	有度郡	安倍郡	志太郡	益津郡	遠江國	橋原郡	佐野郡	城東郡	周智郡	磐田郡	山名郡	豐田郡	敷知郡	長上郡	濱名郡
引佐郡	鹿玉郡	伊豆國	賀茂郡	那賀郡	君澤郡	田方郡	山梨縣	甲斐國	甲府市	東山梨郡	西山梨郡	東八代郡	西八代郡	南巨摩郡	中巨摩郡	北巨摩郡	南都留郡	北都留郡	滋賀縣	
近江國	滋賀郡	栗大郡	野洲郡	甲賀郡	蒲生郡	神崎郡	愛知郡	大田郡	阪上郡	東淺井郡	伊香郡	西淺井郡	高島郡	岐阜縣	美濃國	岐阜市	厚見郡	各務郡	方縣郡	羽栗郡
中島郡	下石津郡	海西郡	多藝郡	上石津郡	不破郡	安八郡	大野郡	池田郡	本巢郡	本巢郡	山縣郡	武儀郡	加茂郡	可兒郡	土岐郡	惠那郡	飛騨國	益田郡	大野郡	吉城郡
長野縣	信濃國	南佐久郡	北佐久郡	小縣郡	諏訪郡	上伊那郡	下伊那郡	西筑摩郡	東筑摩郡	南安曇郡	北安曇郡	更級郡	植村郡	上高井郡	下高井郡	上水內郡	下水內郡	宮城縣	陸前國	岩代國
仙臺市	柴田郡	名取郡	宮城郡	加美郡	志田郡	玉造郡	遠田郡	栗原郡	登米郡	桃生郡	壯吉郡	本吉郡	磐城國	伊田郡	巨理郡	福島縣	岩代國	信夫郡	出雲國	島根縣

伊達郡	安達郡	安積郡	岩瀨郡	南會津郡	北會津郡	耶麻郡	河沼郡	大沼郡	磐城國	東白川郡	西白河郡	石川郡	田川郡	菊野郡	磐前郡	磐城郡	檜葉郡	標葉郡	行方郡	宇多郡
岩手縣	陸中國	盛岡市	南巖手郡	北巖手郡	紫波郡	稗貫郡	東和賀郡	西和賀郡	膽澤郡	江刺郡	西磐井郡	東磐井郡	陸前國	氣仙郡	陸中國	西閉伊郡	南閉伊郡	東閉伊郡	中閉伊郡	北閉伊郡
南九戸郡	北九戸郡	陸奥國	三戸郡	青森縣	陸奥國	弘前市	東津輕郡	西津輕郡	中津輕郡	南津輕郡	北津輕郡	上北郡	下北郡	三戸郡	山形縣	羽前國	山形市	米澤市	南村山郡	
東村山郡	西村山郡	北村山郡	最上郡	羽前國	東田川郡	西田川郡	西置賜郡	東置賜郡	南置賜郡	羽後國	飽海郡	秋田縣	秋田郡	羽後國	南秋田郡	北秋田郡	山本郡	河邊郡	由利郡	仙北郡
平鹿郡	雄勝郡	陸中國	鹿角郡	福井縣	越前國	福井市	足羽郡	吉田郡	坂井郡	大野郡	南條郡	今立郡	丹生郡	敦賀郡	若狹國	三方郡	遠敷郡	大飯郡	石川縣	
加賀國	金澤市	江沼郡	能美郡	石川郡	河北郡	能登國	羽咋郡	鹿島郡	鳳至郡	珠洲郡	富山縣	富山市	富山郡	高岡市	上新川郡	婦負郡	下新川郡	射水郡	礪波郡	
鳥取縣	因幡國	鳥取市	邑美郡	注美郡	岩井郡	八上郡	八東郡	智頭郡	高草郡	氣多郡	伯耆國	河村郡	久米郡	八橋郡	八橋郡	汗入郡	會見郡	日野郡	島根縣	出雲國

知夫郡	周吉郡	隱岐國	鹿足郡	美濃郡	那賀郡	邑智郡	安濃郡	迦摩郡	石見國	神門郡	楯縫郡	出雲郡	飯石郡	大原郡	仁多郡	能義郡	意宇郡	秋鹿郡	島根郡	松江市
川上郡	上房郡	賀陽郡	下道郡	後月郡	小田郡	淺口郡	窪屋郡	都宇郡	備中國	兒島郡	上道郡	邑久郡	和氣郡	警梨郡	赤阪郡	津高郡	御野郡	岡山市	備前國	岡山縣
沼田郡	佐伯郡	安藝市	廣島市	安藝國	廣島縣	久米北條郡	久米南條郡	勝南郡	英田郡	吉野郡	勝北郡	東北條郡	東南條郡	西北條郡	西條郡	大庭郡	真島郡	美作國	阿賀郡	哲多郡
山口縣	惠蘇郡	三上郡	奴可郡	三谿郡	三次郡	甲奴郡	神石郡	品治郡	盧田郡	安那郡	沼隈郡	深津郡	世羅郡	備後國	御調郡	豐田郡	賀茂郡	高田郡	山縣郡	高宮郡
那賀郡	海部郡	各草郡	和歌山市	紀伊國	和歌山縣	吉敷郡	佐波郡	都濃郡	能毛郡	玖珂郡	大島郡	周防國	見島郡	阿武郡	大津郡	美津郡	豐浦郡	厚狹郡	赤間關市	長門國
讚岐國	香川縣	三好郡	美馬郡	麻植郡	阿波郡	坂野郡	名西郡	海部郡	那賀郡	勝浦郡	名東郡	德島市	阿波國	德島縣	東牟婁郡	西牟婁郡	日高郡	有田郡	伊都郡	高松市
越智郡	桑村郡	周布郡	新居郡	宇摩郡	松山市	伊豫國	愛媛縣	鵜足郡	豐田郡	多度郡	三野郡	阿野郡	那賀郡	香川郡	小豆郡	山田郡	三木郡	寒川郡	大內郡	高松市

長岡郡	吾川郡	高岡郡	幡多郡	土佐市	高知市	土佐國	高知縣	北宇和郡	南宇和郡	西宇和郡	東宇和郡	喜多郡	伊豫郡	下浮穴郡	上浮穴郡	欠米郡	温泉郡	和氣郡	風早郡	野間郡
筑後國	早良郡	志摩郡	怡土郡	那珂郡	御笠郡	夜須郡	下座郡	上座郡	穂波郡	嘉麻郡	鞍手郡	遠賀郡	宗像郡	拍屋郡	福岡市	筑前國	福岡縣	安藝郡	香美郡	久留米市
肥前國	佐賀縣	上毛郡	築城郡	仲津郡	京都郡	企救郡	豐前國	三池郡	山下郡	門妻郡	上妻郡	三浦郡	山本郡	御原郡	竹野郡	生野郡	久留米市	佐賀郡	神崎郡	養父郡
合志郡	菊池郡	山鹿郡	山鹿郡	玉山郡	宇土郡	託麻郡	熊本縣	熊本縣	藤津郡	梓島郡	西松浦郡	東松浦郡	小城郡	三根郡	基肄郡	養父郡	神崎郡	佐賀郡	高宮郡	山縣郡
薩摩國	鹿兒島縣	西臼杵郡	東臼杵郡	兒湯郡	東諸縣郡	西諸縣郡	日向國	宮崎縣	日向國	宮崎縣	天草郡	球磨郡	葦北郡	八代郡	下益城郡	上益城郡	阿蘇郡	鹿兒島市	鹿兒島市	鹿兒島市
肝屬郡	東嶺郡	西嶺郡	桑原郡	始良郡	菱川郡	大隅國	出水郡	北伊佐郡	南伊佐郡	薩摩郡	高城郡	日置郡	阿多郡	川邊郡	穎娃郡	揖宿郡	給黎郡	谿山郡	鹿兒島市	鹿兒島市
鳥島	伊平屋島	渡喜數間切	座間味間切	知念間切	佐敷間切	南風原間切	大里間切	真和志間切	豐見城間切	小祿間切	那覇	琉球國	沖繩縣	南諸縣郡	日向國	大島郡	馭護郡	能毛郡	北大隅郡	南大隅郡

久良岐	神奈川縣	堺市	北區	東區	南區	西區	茨田交野、讚良	波川	縣若江、高安、大	丹北、河内、高田、林	郡、丹南、宿部、錦	石川、八上、古市、安	南泉
加美	明有	川	武	八	兵	橫	津	愛	足	足	大	高	三
東	石	馬	原	庫	部	市	井	甲	下	上	綾	住	倉
多	水	七	朝	養	出	城	佐	赤	楯	神	飾	加	加
紀	上	方	美	來	石	氣	粟	用	西	東	西	東	南
東	南	西	中	北	新	長	對	壹	南	北	北	東	西
蒲	蒲	蒲	蒲	蒲	瀉	崎	馬	石	松	松	高	高	彼
原	原	原	原	原	縣	市	島	田	岐	浦	浦	來	來
秋	比	入	北	埼	新	羽	雜	岩	西	中	東	川	中
父	見	企	麗	座	立	玉	市	加	城	城	城	羽	沼
利	吾	確	北	南	綠	片	西	東	群	北	南	北	倉
根	妻	氷	樂	樂	胡	莖	岡	馬	馬	馬	馬	馬	男
區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區
京	都	府	深	水	淺	下	本	小	牛	四	赤	麻	芝
府	川	所	草	谷	鄉	石	小	石	小	石	小	石	小
區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區
與	加	何	天	松	北	南	相	綴	久	宇	紀	乙	葛
謝	佐	鹿	田	井	田	田	樂	喜	世	治	井	訓	野
大	能	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
鳥	勢	島	下	上	言	成	成	成	成	成	成	成	成

歌葉、磯	壽都、島牧、湘棚	尻、大櫛	久遠、與	檜山、爾志	松前	越前	龜田、上磯	茅部、山	北	海	道	岩	谷
上	知	札	丹	美	市	忍	古	小	岩	古	岩	岩	岩
川	雨	梶	美	國	古	路	守	樽	內	守	內	內	內
樺	龍	干	積	積	平	余	守	高	內	內	內	內	內
帶	網	利	宗	上	鹽	苦	益	增	厚	厚	厚	厚	厚
呂	走	尻	谷	川	中	前	益	毛	田	田	田	田	田
紋	斜	禮	枝	上	川	天	益	留	濱	濱	濱	濱	濱
東	河	當	劍	別	似	內	浦	新	別	別	別	別	別
上	西	綱	路	似	三	石	河	冠	別	別	別	別	別
川	河	中	廣	似	石	石	沙	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
東	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
上	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
河	川	川	尾	幌	幌	幌	流	靜	別	別	別	別	別
川	河	川											

三下	上北	南中	西東	青森	盛岡	二北	南九	關伊	關伊	東關	南關	西關	氣仙	東磐	西磐
戶北	北北	輕輕	津津	縣縣	市市	戶戶	戶戶	北北	中中	伊伊	伊伊	伊伊	仙仙	井井	井井
河山	北南	秋田	米澤	山形	南東	西西	東東	飽田	最北	北村	西村	東村	南村	山形	弘前
邊本	田田	縣縣	市市	市市	賜賜	賜賜	川川	川川	海上	山上	山上	山上	山山	縣縣	市市
石川	福大	遠三	敦南	丹今	大坂	吉足	福井	秋鹿	雄平	仙由	能沼	石川	江美	沼美	沼美
縣縣	市市	飯飯	敷敷	方方	賀賀	條條	生立	野井	田田	羽羽	縣縣	市市	角勝	鹿鹿	北北
岩井	鳥取	高岡	富山	礪波	射水	下新	島根	島根	日會	汗八	河村	氣多	高草	八上	江美
美法	縣縣	市市	市市	市市	市市	市市	縣縣	縣縣	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市
安濃	出雲	飯石	仁原	能義	島根	島根	島根	島根	日會	汗八	河村	氣多	高草	八上	江美
濃摩	神門	石原	安原	義原	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市
下後	小田	淺屋	窪宇	都島	兒道	上久	和氣	磐梨	赤阪	津高	野高	岡山	松江	鹿島	美濃
道月	田田	口屋	宇宇	島島	道道	久久	氣氣	梨梨	阪阪	高高	野野	山山	江江	島島	足濃
佐安	廣島	岡山	久米	久米	勝南	英田	言野	勝北	東北	西條	西條	大庭	真島	阿賀	哲多
伯藝	縣縣	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市
熊玖	山口	廣島	奴可	三上	三上	奴可	三上	三上	奴可	三上	三上	奴可	三上	三上	奴可
毛珂	縣縣	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市
和歌	東車	西車	日有	伊都	那賀	海部	草部	和歌	赤間	見島	阿武	大美	豐浦	厚狹	吉敷
市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市

阿度	飯飯	一安	河奄	鈴鹿	三員	桑名	三重	宇智	高市	高市	高市	高市	高市	高市	高市
拜會	氣野	高志	濃曲	丹西	東春	愛知	津南	北英	答伊	名山	名山	名山	名山	名山	名山
額幅	島知	海海	中樂	丹西	東春	愛知	津南	北英	答伊	名山	名山	名山	名山	名山	名山
田豆	海多	西東	島粟	羽羽	井井	知縣	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市
檢益	志安	有庵	富原	駿田	君那	賀賀	靜岡	名古	八屋	渥美	濱名	南設	北設	東賀	西賀
原津	太倍	渡原	士東	方澤	賀賀	茂茂	縣縣	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市
甲北	南都	北都	中巨	南巨	西八	東八	山梨	靜岡	引濱	長上	豐田	周智	東智	野東	野東
府都	留留	留留	留留	留留	留留	留留	留留	留留	留留	留留	留留	留留	留留	留留	留留
市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市
海中	羽方	厚見	岐阜	高島	伊香	阪井	犬上	神崎	浦生	甲賀	栗洲	滋賀	滋賀	滋賀	滋賀
西島	栗栗	谷務	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣
南佐	長野	岐市	吉田	大野	惠那	土可	加那	武上	山儀	本縣	池田	大安	不破	多上	下石
久縣	縣縣	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市	市市
名巨	伊川	柴田	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城	宮城
取理	具田	田田	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣	縣縣
那北	南岩	安安	伊伊	信夫	福島	仙臺	本吉	牡鹿	桃生	登米	栗原	遠田	志田	黑川	宮城
會會	會會	會會	會會	會會	會會	會會	會會	會會	會會	會會	會會	會會	會會	會會	會會
麻津	津津	津津	津津	津津	津津	津津	津津	津津	津津	津津	津津	津津	津津	津津	津津
江膽	賀賀	賀賀	賀賀	賀賀	賀賀	賀賀	賀賀	賀賀	賀賀	賀賀	賀賀	賀賀	賀賀	賀賀	賀賀
刺澤	刺澤	刺澤	刺澤	刺澤	刺澤	刺澤	刺澤	刺澤	刺澤	刺澤	刺澤	刺澤	刺澤	刺澤	刺澤

淺草	下谷	本郷	小石川	牛込	四谷	赤坂	麻布	芝	芝	京橋	日本橋	神田	神田	麩町	警視廳
北海道	青森	府中	八王子	小松	千代田	板橋	新宿	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
江戶	福島	日光	八雲	森	水戸	上野	戸田	龜田	七飯	函館	厚田	旭川	岩見澤	月形	市來
浦	勇	有	室	燒	苦	鬼	留	增	古	余	小	古	岩	磯	永
河	拂	珠	蘭	尻	前	鹿	前	毛	平	市	樽	宇	内	谷	豊
惠	枝	宗	紋	常	斜	網	國	標	別	根	大	霧	熊	厚	茂
脇	幸	谷	別	呂	里	走	後	津	海	室	津	布	牛	岸	寄
八	井	淀	伏	向	花	桂	山	田	桂	五	建	一	中	河	京
幡	手	久	保	見	町	園	科	中	川	條	寺	條	條	立	原
大	久	網	峰	養	加	宮	志	河	舞	綾	上	福	福	福	福
阪	美	間	野	山	老	悅	津	樂	守	鶴	部	部	部	部	部
府	濱	人	野	山	老	悅	津	樂	守	鶴	部	部	部	部	部
茨	地	池	平	住	今	玉	王	三	野	北	柴	野	曾	北	南
木	黃	町	野	吉	福	造	寺	家	波	法	島	中	根	根	根
額	御	更	八	國	柏	阿	金	古	三	日	市	林	富	市	貝
田	厨	池	尾	分	原	彌	田	市	市	市	市	市	市	市	市

瀨	阿	山	小	大	香	德	三	美	阿	板	名	海	那	勝	名	德
足	野	川	田	豆	川	島	好	馬	植	波	野	西	部	賀	浦	東
南	東	西	喜	下	宇	新	野	越	米	風	愛	高	三	高	三	那
宇	宇	宇	伊	浮	浮	居	野	米	温	早	媛	松	豐	田	野	多
和	和	和	多	豫	允	布	間	智	久	和	縣	市	市	市	市	市
上	穗	嘉	鞍	遠	宗	福	高	安	香	長	吾	高	土	高	松	北
座	波	氣	手	賀	像	岡	知	藝	美	岡	川	岡	佐	知	山	宇
夜	須	下	上	築	仲	田	企	三	山	竹	下	上	三	御	怡	那
久	福	上	築	仲	京	田	企	三	山	竹	下	上	三	御	怡	那
留	岡	毛	城	津	都	川	救	池	門	野	葉	妻	妻	渚	早	那
米	市	市	毛	城	津	都	川	救	池	門	野	葉	妻	妻	渚	早
市	市	市	毛	城	津	都	川	救	池	門	野	葉	妻	妻	渚	早
東	小	基	神	佐	佐	宇	下	日	玖	直	大	南	北	大	速	東
松	三	三	三	崎	賀	賀	毛	田	珠	入	野	部	部	分	見	東
浦	城	根	崎	賀	賀	毛	田	珠	入	野	部	部	部	部	部	部
宮	熊	天	球	八	上	阿	志	山	玉	龍	熊	佐	藤	杵	西	大
崎	本	草	磨	北	下	益	益	菊	宇	田	本	賀	賀	津	松	分
縣	市	草	磨	北	下	益	益	菊	宇	田	本	賀	賀	津	松	分
宮	高	阿	日	邊	給	隅	鹿	鹿	西	東	兒	東	西	北	南	宮
島	城	多	置	川	給	隅	兒	兒	日	日	湯	湯	湯	湯	湯	北
縣	南	伊	置	川	給	隅	兒	兒	日	日	湯	湯	湯	湯	湯	北
宮	久	國	中	島	首	那	沖	鹿	大	熊	肝	東	西	北	南	宮
古	米	頭	頭	尻	里	那	繩	兒	島	毛	南	南	西	北	南	北
島	島	頭	頭	尻	里	那	繩	兒	島	毛	南	南	西	北	南	北

安中	洪川	高崎	前大	群馬縣	幸寶	越杉	岩吉	加草	忍羽	深寄	妻居
檢見	大和	千葉	千葉	原野	沼大	桐生	館林	太水	伊勢	万吉	藤下
一宮	茂原	佐小	二見	東松	秋元	佐貫	水更	我津	成下	遠山	佐倉
石堅	磯下	水戸	茨城	行市	船橋	多古	福岡	飯網	鮎子	関宿	野田
鉾高	平瀨	古河	東那	笠間	布川	守谷	取手	玉造	潮來	小生	大里
小水	上三	都宮	栃木	龍ヶ	岩井	境井	結城	水海	北道	谷部	江崎
柶本	奈良	茂水	眞岡	鳥山	川野	大原	矢野	足光	日市	今市	鹿沼
大泉	桑名	三重	下津	五市	御條	八所	松原	榛原	唐院	田本	三輪
阿保	名植	上野	水尾	尾波	鳥切	宇治	相山	松川	久保	安居	津濃

三浦	橫須	都高	神奈	山手	石川	加賀	伊賀	神奈	津中	守口	枚北	教興
崎賀	須賀	高津	川崎	水町	川町	水町	伊賀	伊賀	津中	守口	枚北	教興
伊尼	西御	須賀	兵水	神水	兵庫	中厚	小原	松原	大磯	伊勢	藤澤	戸塚
赤佐	新網	電鷲	福前	姫魚	加中	社北	三明	三廣	志洲	濱湯	八生	和出
穗用	宮千	野水	崎庄	廣路	橋砂	川村	條水	石山	志洲	濱湯	八生	和出
築本	阪村	岡鹿	野山	石原	住島	岡田	治原	山積	志洲	濱湯	八生	和出
諫早	東有	小濱	口津	島原	高嶋	深堀	茂木	矢上	時津	瀬戸	浦上	梅佐
中條	紫雲	葛塚	新發	新瀨	新瀨	佐須	鷲原	長崎	福有	武生	志山	平山
寺出	與見	加中	三島	菅根	內野	地鐵	燕堂	卷五	村松	沼垂	龜田	白根
川原	湊小	相能	糸魚	安塚	關山	新井	柿崎	直津	高宮	拍川	湯澤	六日
熊谷	賀兒	本野	小野	大野	松宮	飯能	所澤	越生	川越	桶川	浦和	埼玉

飯野川	廣淵	氣仙沼	登米	志津川	岩白	西河	盛岡	岩手	大河沼	那猪苗代
飯坂	信方	福島	若柳	若水	築館	岩出山	中新田	古新田	涌谷	涌谷
伊原	飯坂	信方	福島	若柳	若水	築館	岩出山	中新田	古新田	涌谷
北會津	南會津	行方	楢葉	楢葉	磐城	石川	東白川	田新	矢吹	盛岡
川山	宮古	釜淵	遠野	盛岡	干谷	一戸	岩谷	水沢	川尻	黒沢
七戸	五所川原	水原	鮎川	黒川	八戸	弘前	青森	青森	沼宮内	福岡
東川	吹浦	飽海	東小國	金山	最上	尾花	東根	北村	左澤	谷地
土船	和野	新島	牛島	秋田	秋田	南小國	米澤	小宮	高松	東置賜
増田	横手	六角	川和	大曲	塩曲	龜田	本庄	森	二ツ井	能代
武今	栗田	鯖江	西田	三田	大勝	松野	東野	福井	福井	花輪
南大	羽津	美鶴	金松	別宮	寺井	小松	大聖	西野	石川	高松
原	津	川	石	任	井	松	中	寺	石川	高松

半彌	津島	祖父	稻澤	一宮	大田	小島	西根	瀨戸	勝川	熱海	江川	石川	門前	名古屋	愛知
江島	藤枝	静岡	静岡	静岡	豊橋	御油	新城	新田	足助	網走	西尾	大瀬	知立	横須賀	内海
氣新	濱松	森岡	山名	見附	掛川	相谷	相谷	相谷	相谷	相谷	相谷	相谷	相谷	相谷	相谷
大津	滋賀	北都留	南都留	東山梨	東八代	西八代	中巨摩	南巨摩	北巨摩	甲府	山梨	山梨	山梨	山梨	山梨
今津	木津	速水	醒井	長江	彦根	愛知	八日市	八日市	八日市	八日市	八日市	八日市	八日市	八日市	八日市
八百	上野	金山	八幡	高富	北野	池田	大井	高井	高井	高井	高井	高井	高井	高井	高井
上諏	丸別	木津	輕井	小諸	岩田	日野	長野	長野	長野	長野	長野	長野	長野	長野	長野
須松	屋大	塩北	池田	大井	豊科	麻績	松本	松本	松本	松本	松本	松本	松本	松本	松本
石白	角巨	大増	岩長	吉作	原並	塩釜	仙臺	宮城	飯水	長中	長中	長中	長中	長中	長中
卷石	森田	理原	田沼	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田	沼田

宮城	長野	岐阜	滋賀	山梨	静岡	愛知	三重	椋木	群馬	茨城
大田	大門	白木	上京	錦	吳服	鐵砲	津	倭	前橋	水戸
九二ノ二九ク三九シ	中山道追分ヲ經テ 五八ノ三三ク五九シニ	名古屋ヲ經テ 一〇三ノ二六ク三八シ三	東海道通り 一七ノ三四ク五五シ四	甲州街道通り 三五ノ一九ク三四シ五	東海道通り 四六ノ一〇ク二五シ	熱田ヲ經テ 九四ノ〇六ク一三シ四	四日市ヲ經テ 一一ノ一〇ク四五シ三	小山ヲ經テ 二三ノ一九ク〇八シ四	熊谷及ヒ伊勢寄ヲ經テ 二八ノ〇六ク〇五シ	土浦通り 二九ノ三二ク一六シ二
明治十四年五月改正	鹿兒島	熊本	大分	福岡	高知	愛媛	徳島	和歌山	山口	廣島
	山下	新	碩田橋	橋	本町	松山	西横	京	大市	細工
	小倉及ヒ熊本ヲ經テ 三三八ノ二六ク〇二シ二	小倉及ヒ久留米ヲ經テ 三三三ノ二八ク一〇シ	京都及ヒ小倉ヲ經テ 三二〇ノ二六ク一〇シ	小倉及ヒ山家ヲ經テ 三一一ノ二九ク二五シ三	全 二三九ノ二七ク五二シ四	下津井及ヒ九龍ヲ經テ 二四八ノ三三ク一四シ二	明石ヲ經テ淡路通り 一八二ノ三三ク五三シ	大阪ヲ經テ 一六一ノ〇六ク一四シ四	京都及ヒ廣島ヲ經テ 二六九ノ一六ク四三シ一	全 二三三ノ三五ク四一シ一

鐵道賃錢金一覽

新橋横濱及國府津間	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川	品川
高崎直江津間	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎
	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎	高崎
赤羽間	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽
	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽	赤羽

大府		武豐		龜山		宮川		津		阿		高		松		相		川		田		官			
八日	立川	大府	武豐	龜山	宮川	津	阿	高	松	相	川	田	官	田	川	松	相	川	田	官	田	川	松	相	
三〇五	三二	三六四	三三九	三九六	三三九	三六四	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	
二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四

大府		武豐		龜山		宮川		津		阿		高		松		相		川		田		官			
八日	立川	大府	武豐	龜山	宮川	津	阿	高	松	相	川	田	官	田	川	松	相	川	田	官	田	川	松	相	
三〇五	三二	三六四	三三九	三九六	三三九	三六四	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	
二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四	二二	二四

下 小 山 名 山 橋 間 錢	下 高 三 古 外 外 立 久 井 河 原 水	下 高 濱 外 側 平 井 河 原 間 錢	下 水 赤 內 天 笠 福 岩 下 川 結 山 名 山 水 橋 間 錢	下 小 山 名 山 水 橋 間 錢	下 日 今 市 光 三 五 錢
下 小 山 名 山 橋 間 錢	下 高 三 古 外 外 立 久 井 河 原 水	下 高 濱 外 側 平 井 河 原 間 錢	下 水 赤 內 天 笠 福 岩 下 川 結 山 名 山 水 橋 間 錢	下 小 山 名 山 水 橋 間 錢	下 日 今 市 光 三 五 錢
下 小 山 名 山 橋 間 錢	下 高 三 古 外 外 立 久 井 河 原 水	下 高 濱 外 側 平 井 河 原 間 錢	下 水 赤 內 天 笠 福 岩 下 川 結 山 名 山 水 橋 間 錢	下 小 山 名 山 水 橋 間 錢	下 日 今 市 光 三 五 錢

下 小 山 名 山 橋 間 錢	下 高 三 古 外 外 立 久 井 河 原 水	下 高 濱 外 側 平 井 河 原 間 錢	下 水 赤 內 天 笠 福 岩 下 川 結 山 名 山 水 橋 間 錢	下 小 山 名 山 水 橋 間 錢	下 日 今 市 光 三 五 錢
下 小 山 名 山 橋 間 錢	下 高 三 古 外 外 立 久 井 河 原 水	下 高 濱 外 側 平 井 河 原 間 錢	下 水 赤 內 天 笠 福 岩 下 川 結 山 名 山 水 橋 間 錢	下 小 山 名 山 水 橋 間 錢	下 日 今 市 光 三 五 錢
下 小 山 名 山 橋 間 錢	下 高 三 古 外 外 立 久 井 河 原 水	下 高 濱 外 側 平 井 河 原 間 錢	下 水 赤 內 天 笠 福 岩 下 川 結 山 名 山 水 橋 間 錢	下 小 山 名 山 水 橋 間 錢	下 日 今 市 光 三 五 錢

手 下	車列下					車列上				
	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上
岩見澤 空	若松	飯島	小田	折木	松尾	若松	飯島	小田	折木	松尾
	八	一	三	二	一	八	一	三	二	一
太歌志內	若松	飯島	小田	折木	松尾	若松	飯島	小田	折木	松尾
	八	一	三	二	一	八	一	三	二	一
岩見澤	若松	飯島	小田	折木	松尾	若松	飯島	小田	折木	松尾
	八	一	三	二	一	八	一	三	二	一
太歌志內	若松	飯島	小田	折木	松尾	若松	飯島	小田	折木	松尾
	八	一	三	二	一	八	一	三	二	一

備考

備考

○東京神戶及直江津間 五十哩以上ノ切手所持ノ者ハ左記ノ際ニ限り下車
○京橋 大塚 大橋 御殿場 大垣 沼津 興津 草津 上田
○大宮 古川 磯部 横川 輕井澤 小諸
○上野 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○再上野 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○熊谷 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○五郎原 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○神戶 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○五郎原 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○日下 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○百太郎 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○山陽 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○伊予 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○定八 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○嶮崎 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○鐵道會社 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○券外側 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○付間 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○車賃 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○金上 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○外側 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○下等 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○井原 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○以上 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○往來 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○八錢 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○割合 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内
○以テ 宇都宮 小田 松島 宇都宮 西那須野 盛岡 白河 尻内

庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅
百七十五	百八十七	百九十九	百一十一	百二十三	百三十五	百四十七	百五十九	百七十一	百八十三	百九十五	百零七	百一十九	百三十一	百四十三	百五十五	百六十七	百七十九	百九十一	百零三	百一十五
庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅
百七十五	百八十七	百九十九	百一十一	百二十三	百三十五	百四十七	百五十九	百七十一	百八十三	百九十五	百零七	百一十九	百三十一	百四十三	百五十五	百六十七	百七十九	百九十一	百零三	百一十五

庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅
百七十五	百八十七	百九十九	百一十一	百二十三	百三十五	百四十七	百五十九	百七十一	百八十三	百九十五	百零七	百一十九	百三十一	百四十三	百五十五	百六十七	百七十九	百九十一	百零三	百一十五
庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅	庚五	丙九	甲寅
百七十五	百八十七	百九十九	百一十一	百二十三	百三十五	百四十七	百五十九	百七十一	百八十三	百九十五	百零七	百一十九	百三十一	百四十三	百五十五	百六十七	百七十九	百九十一	百零三	百一十五

明治廿七年六月十九日印刷
明治廿七年六月二十七日發行

正價金五拾錢

發行者

篠佐
東京神田區鈴木町二番地

吉

印刷者

香山秀吉
東京京橋區南紺屋町廿六番地

吉

石刷所

盛廣堂香山
東京京橋區南紺屋町廿六番地

山

同

彫刻會社
東京京橋區日吉町十二番地

社

發行所

いろは辭典發行部
東京日本橋區北鞆町五番地



大 賣 捌 所

東京日本橋區北鞘町第
百五十二國立銀行同所
東京神田區一ツ橋通町
東京京橋區銀坐四丁目
東京京橋區南紺屋町
大阪備後町
東京神田區維子町
東京日本橋區通一丁目
東京神田區表神保町
東京神田區表神保町
東京日本橋區通三丁目
大阪東區久寶寺町
橫濱辨天通二丁目
東京神田區鈴木町
東京日本橋區新大阪町
東京神田區裏神保町
東京京橋區南傳馬町
東京日本橋區通油町
東京京橋區木挽町一丁目

いろは辭典發行部
有斐閣
博文社
北國組出張所
吉岡平
大倉書邦
中西尾新邦
丸善書新邦
丸善書新邦
敬文書新邦
小林嘉右衛門
明目法十
水野慶次
成野章次
(いろは順)

いろは辭典發行部廣告

前帝國大學總長從三位勳三等渡邊洪基君題字
故元老院議官文學博士正四位勳三等中村正直君序文
高橋五郎先生著

增訂二版
和漢雜俗
いろは辭典

大本假製本四冊○辭數凡拾萬○圖畫五百八拾四○紙數凡一千四百
五十ペーシ○假製本正價金壹圓八拾錢○本製本全一冊正價金貳圓
○定價金參圓五拾錢○假製本一冊金四拾五錢 郵稅八錢づゝ

對漢
照英
いろは辭典

大本假製本四冊○辭數凡七萬○圖畫五百卅四○紙數一千二百ペー
シ○假製本正價金參圓六拾錢○本製本全一冊正價金參圓八拾錢○
定價金五圓五拾錢○假製本一冊金九拾錢 郵稅八錢づゝ

石寫
版眞
明 治 書 畫 帖
(原名彰功帖)

半紙形(横一尺五分縦八寸)一百枚○類字(横三尺二寸縦一尺)三枚
正價金貳圓郵稅八錢○用紙上等畫箋紙○定價金貳圓四拾五錢○額
字一枚金拾五錢、郵稅貳錢

極彩色 大日本帝國勳章圖

十九遍摺極彩色石版○賞勳局御備圖と同一但眞形二分の一○縦一
尺四寸横一尺八寸上等洋紙○勳章圖三十三張章圖八畧綬章十四合
計五十五圖○附録一冊○廿ページ但勳章褒章に關する詔勅及官令
を載す○正價廿錢(郵稅とも)定價金五拾錢○郵券代用苦からず

文部省御檢定済
帝國文科大學教授ヂツソン先生著
ENGLISH COMPOSITION.

英文教科書 大本上製四冊

- 第一冊 文法書 三百三十二ページ、正價金三拾五錢、郵稅六錢
- 第二冊 教師必携 二百四十八ページ、正價金三拾五錢、郵稅六錢
- 第三冊 英語用文章 二百二十七ページ、正價金三拾五錢、郵稅六錢
- 第五冊 作文書 二百六十一ページ、正價金三拾五錢、郵稅六錢

英學の指針として學生間に愛翫せらるゝ日己に久し實に英作文上必
携の良書なり

理科大學教授從四位理學博士菊池大麓先生講

正訂 數理釋義 大本上製一冊

紙數五百ページ正價金八拾錢、郵稅拾貳錢
本書は英國の大數學者クリホード氏の名著にして菊池博士の靈腕に
翻譯せらる鼻近の例を以て深遠の數理を解ける恐らくは天下此書の
右に出る者なかるべし數理の堂に上り室に入らんと欲する諸君は請
ふ一覽を賜へ

司法省御藏版

佛國民法正解 人事編 大本假製二冊

紙數一千三百余ページ、正價金壹圓五拾錢、郵稅廿四錢
本書は佛國有名の「ラカンチヌリ」氏の原著にして本編の蘊奥を究め
たるものにて其譯文の穩當正確なる今更喋々を要せざるところなり
法官代言人及法律に従事せらるゝ諸君は速に一本を購求せらる可し

英國人デニング先生編纂
JAPAN IN DAYS OF YORE BY MR. W. DENING.

英 文
舊日本佳話叢 中本全四冊

和本仕立用紙上等伊豫紙

紙數三百五拾ヘーシ、非常廉價金九拾錢、郵稅拾貳錢、定價貳圓

第一卷 Human Nature in a Variety of Aspects. 農夫の子後藤半

四郎が生涯義侠にして人を助け終に大岡越前守の前に出る願末

を記す英文の妙描寫の精人をして一唱三歎せしむ

第二卷 Wounded Pride. How it was Hated. 徳川將軍家光公が擊

劍の道場に忠直の臣安倍豊後守に打懲され怨恨骨髓に徹せしを

大久保彦左衛門の直諫に由て釋然氷解するに至りし美談を掲ぐ

第三卷 舊日本劍客の巨壁宮本無三四の武者修行たよび復讐の一部

始終を詳記す眞に是れ純然たる日本劍道小史

英國人デニング先生著

英 文
豐臣秀吉一代記 中本全五冊

(四)

和本仕立、用紙上等伊豫紙、(日本紙)紙數四百余ヘーシ、非常
廉價金壹圓、郵稅拾四錢、定價金貳圓五拾錢

身布衣より起りて位人臣を極めたる日本第一の英雄大間の傳記は昔
に日本の爲に否な天下萬人の爲に氣餒を吐く而已ならず亦た徳川昇
平三百年の封建制度が如何に此の猿面郎の方寸及ひ巨腕より開發し
來りしかを明かにす要するに是れ直ちに人類史にして又日本封建史
なりしと謂ふ可し

以上二種の書籍は日本の事を知らんと欲する英國人民の好讀本たる
のみならず亦是れ英語を學ばんとする日本學生の必讀と稱す可し

佳話叢五百部一代記三百部限り此廉價を以て發賣す但圖畫挿入
のものにあらず又表装は雅致ある色紙を用ふべきものとす

井上勤先生譯

奇 絶
魯敏孫漂流記 大本背葦付 上製全一冊

紙數四百拾ヘーシ、正價金五拾五錢、郵稅八錢

ロビンソン漂流記は天下少年文學中の巨擘なり之を讀まざる者は世
に後れたるの嘲を免かれず井上氏の輕快文學錦上更に花を添へたる
觀あり玉を變じて石となすが如き凡筆の企だて及ぶ所にあらず

(五)

長三州先生題字
橋爪貫一先生編輯

石版印刷

康熙字典

小本和裝絹表紙
上製全一冊

紙數八百三十ページ、用紙雁皮質厚紙、正價金五拾五錢、郵税六錢
本書は康熙字典撮影的縮寫とも稱すべき輕便の良著世間群書中に
嶄然頭角を顯はせるものなり抑字書に二種あり一は讀書に資するも
の一作文に資するもの之れなり本字典は甲種に屬しいろは辭典は
乙種に屬す故に兩字典を机上に供ふれば讀書作文意の如くならざる
なし又康熙字典は此まで銅版なりしを今回は石刷に付するを以て其
鮮明なる普通賣品に見ざる所なり

東京和泉橋警察署御編輯

新舊市町村一覽

(一名地名字書)
大本上製全貳冊

紙數一千ページ、正價金壹圓六拾錢、郵税貳拾錢
新町村と舊町村とを對照す●各町村毎に其管轄警察署分署名を付す
●市町村役場郵便電信局所在の位置を示す●いろはわけ新町村索引
を付す●府縣管轄一覽を付す●警察署及分署名稱位置一覽を付す●
北海道沖繩縣其他各郡市町村名に假名を付す

全國市町村便覽 大本全一冊

紙數凡二百五十ページ、正價金四拾五錢、郵税六錢

本書は市町村制を施行せらるゝ各府縣は勿論北海道沖繩縣其他島嶼
に至る迄一々假名を付したるものにて人々一本を座右に備ふべきも
のなり

太政大臣從一位大勳位三條實美公篆額
文學博士重野安釋先生撰
巖谷一六先生書

故川路大警視公碑文 全一枚

竪一尺八寸幅一尺餘○料紙上等畫箋紙○正價金五錢郵税二錢○
郵券代用苦しからず

故川路大警視は日本警察の鼻祖と稱せらるゝ所にして其性行履歷の
如きは普く警官諸君の知らんことを望まらるゝ所なるべし依て之れを
軸又は額に調製せらるゝときは高雅優美他に其類を見ざる所なり本
邦警察官諸君は一葉を座右に備へ居常愛翫欣慕せられんことを希望
す

東京和泉橋警察署御編纂

警務要覽 大本全壹冊

紙數一千三百四十五ページ ○附錄東京警察官服制沿革圖(石版印刷) ○本書は警察官に限り金七十五錢にて御請に應ず ○御入用の御方は其旨御通知あるべし 通運先拂にて送呈す ○着本の後五日間内に金廿五錢殘五十錢は二ヶ月賦にて御送付あるも差支へなし

前警視丹羽五郎君纂輯

寫眞現行法典 袖珍上製 全壹冊

帝國憲法、刑法、刑事訴訟法、民事訴訟法、商法、諸罰則及び之れ等に關する諸法規并に全國大成市町村便覽を附録とす
脊角革金字入最上製 ○縱四寸横三寸厚さ八分 ○細字鮮明 ○料紙硬白 ○裝釘堅牢 ○体裁優美 ○價值至廉 ○正價金五拾錢 ○郵税金六錢 ○定價金七拾五錢 ○紙數七百六十ページ

題字 故川路大警視公の御書を掲ぐ
前警視丹羽五郎君纂輯

寫眞現行法典 第二編 假製全一冊 正價金八錢 郵税金貳錢

明治初年以來廿六年四月まで廿六年間に發布せられたる警察に關する一切の法則を網羅纂輯せられたるものなり
脊角革金字入最上製 ○縱四寸横三寸厚さ八分 ○細字鮮明 ○料紙硬白 ○裝釘堅牢 ○体裁優美 ○價值至廉 ○正價金五拾錢 ○郵税金六錢 ○定價金七拾五錢 ○紙數六百五十八ページ

寫眞現行法典 第二編 假製全一冊 正價金八錢 郵税金貳錢

明治二十六年四月より明治二十七年三月までの法規を輯む

寫眞警察寶典 第二編 假製全一冊 正價金拾錢 郵税金貳錢

前帝國大學總長從三位勳三等渡邊洪基君題字
故元老院議官正四位勳三等文學博士中村正直君序
高橋五郎君著
袖珍石版
和漢雅俗
いろは辭典 和本上製全一冊

絹表紙上等和本仕立○縦四寸四分横三寸六分○細字鮮明○圖畫
明瞭○裝釘堅牢○體裁優美○價格至廉○辭數凡四萬貳千○圖畫
五百八十四個○紙數一千八百一ツ○正價金七拾四錢郵稅金六錢

東京和泉橋警察署原著
袖珍版
全國大版
紙數二百八一ツ○本書は市町村制を施行せらるゝ各府縣は勿
論北海道、沖繩縣、小笠原島、伊豆七島、對馬國、隱岐國、大
島、德之島、喜界島、沖永良部島、與論島及川邊十島の各島嶼
に至る迄一々假名を付したる珍書なり

假製全一冊 正價金廿錢
郵稅金貳錢

前警視丹羽五郎君纂輯
石版
國民必携
洋裝上製
全壹冊

憲法を始め國民の日常座右に欠くべからざる各種の法令を網羅
す○賞勳局御備圖と同一なる極彩色明治勳章圖を挿入す○日常
便利なる諸件を附録す○體裁印刷、裝釘及料紙等現行法典
警察寶典と毫も異なることなし○正價五拾錢郵稅六錢
現行法典、警察寶典、いろは辭典、市町村便覽、國民必携に付て
普通書籍に印行する文字は大抵五號活字を用ひ稀に六號活字を用ふ
るものあるも皆字形大にして袖珍書たるに適せず依て弊部は七號活

前警視丹羽五郎君纂輯
類現行

明治法典

洋裝大本 假製全五冊
上製全一冊

字を用ひん欲し東京にて有名なる築地活版所、國文社、秀英社及機
關舎等に依頼せんとせしむるに皆文字不足にして斯くの如き大著書を行
刷する能はず是に於て止むを得ず本邦に於て未だ曾て實行したるも
なき石版印刷の書籍を印刷せんとすに計畫せり而して又其印刷法たる
や機械的印刷の非るを以て活版印刷に比するに數倍の費用を要したるは言を
俟たず弊部は又本書裝釘に意を用ゐたり元來本書は官署往復巡回旅
行等に際し常に衣袋に藏め携せらるゝを目的となしたるものなれ
ば務めて堅牢を旨とし決して破綻の憂ひなからんことを期せり
弊部は斯の如き注意を以て斯の如き未曾有の書冊を斯の如き非常の
廉價にて發行するにつきては世間或ひは怪訝せらるゝ人なしと謂ふ
ものにて決して誇揚虚構にあらざるは紙尾購客諸君の書翰を參觀せ
らるれば明瞭なるべし

明治元年以來明治二十七年五月まで發布の諸法典則憲法、刑法、
刑事訴訟法、民法、民事訴訟法は勿論萬般の法規令則及各國條約に至
る迄を網羅し殆んど漏すことなき明治照代の一大法典書なり

購求申込書

何官署、學校、會社、銀行又は御宿所
年月日 御 氏 名 印

一書名 本製(又は假製)

一金何圓錢 記
一金何圓錢

右書名何部代
右郵稅

右の代金(郵稅)左記の通送付候條
速に送本可有之此段申入候也(但
通運先拂を以て送本可有之候事)
當發行部へ御送金の節は總て全地所
國立銀行宛にて御送付被成度候
御同封被成下差支無之候○郵便爲替
成下其證券「拂渡局名」の欄内へ東京
欄内へ東京日本橋區北鞘町五番地第
書留郵便にて御送付被成度候○通運
の外市内配達料をも御仕拂被成度候
きは總て其金額の割増にて御送付被
郵券御封入被成下度候○未納又は不足
稅の郵便は一切受理不仕候

購客諸君の御書翰

人各々購アリ酒色ニ音樂ニ踏舞ニ書ニ畫ニ生モ亦々常ニ書ヲ開スルノ
一稱アリ故ニ著アル書本抄カラス其ノ需ムルヤ新刊ノ書籍ハ新聞ヤ雜
誌ノ廣告ニ據リ以テ之ヲ購求スルヨリ手ニ落チ査閱ニ至リテハ實ニ一
山三文ノ校訂ナリトシテ往々有之近時書籍ノ發行ニ某學士某博士ノ題字
ノ奸商出沒吾人ヲシテ只々虛名ヲ博シ其ノ實ナキモノヲ發賣スル
部ノ如ク奸商ノ手ニ接セシテ未タ容易ニ之ヲ賞スルヲ要セザリキ爲
トナク先ツ試ミニ康熙字典一本ヲ豫約ス今ヤ其書籍ヲ手ニ先キノ豫
メニ先ツ試ミニ康熙字典一本ヲ豫約ス今ヤ其書籍ヲ手ニ先キノ豫
ノ小冊子ニテ袖携ニ便ナルト價ノ廉ナルニ到テハ貴部ノ欣喜ノ余リ學
友輩ニ貴部所ハ他店ノ之レヲ能ク爲シ廉ナルニ到テハ貴部ノ欣喜ノ余リ學
セシム先ツ貴部所ハ他店ノ之レヲ能ク爲シ廉ナルニ到テハ貴部ノ欣喜ノ余リ學
御査改ノ上御受納被下候ハ幸甚

廿五年十二月十九日

茨城縣水戸市下市二ノ町 澤 政 常

(前略) 今回御差送の字典ハ想像外之結果ニテ實ニ一
第ニ御座候 廿五年十二月廿二日

宮城縣砲兵第一方面仙台支署 和田 重 固

いろは辭典發行部御中

康熙字典の儀印刷製本とも至極の上出来感服仕候日夜机上の同伴として永く寶藏可致候盛信一君追書至極同感世間幾多の奸商か肝を冷やすべきこと、被存候いろは辭典の儀も二回分御出版の由嘸見事御出来の事と乍蔭喜ひ居候小生は本製本希望豫約者ニ候得ば來二月に無之は相見事不叶只管屈指待居候代金も二月完結前には無相違送金可仕候條御懇念被下間敷候

十二月廿三日

いろは辭典發行部御中

秋田縣南秋田郡北磯村

青柳淳吉

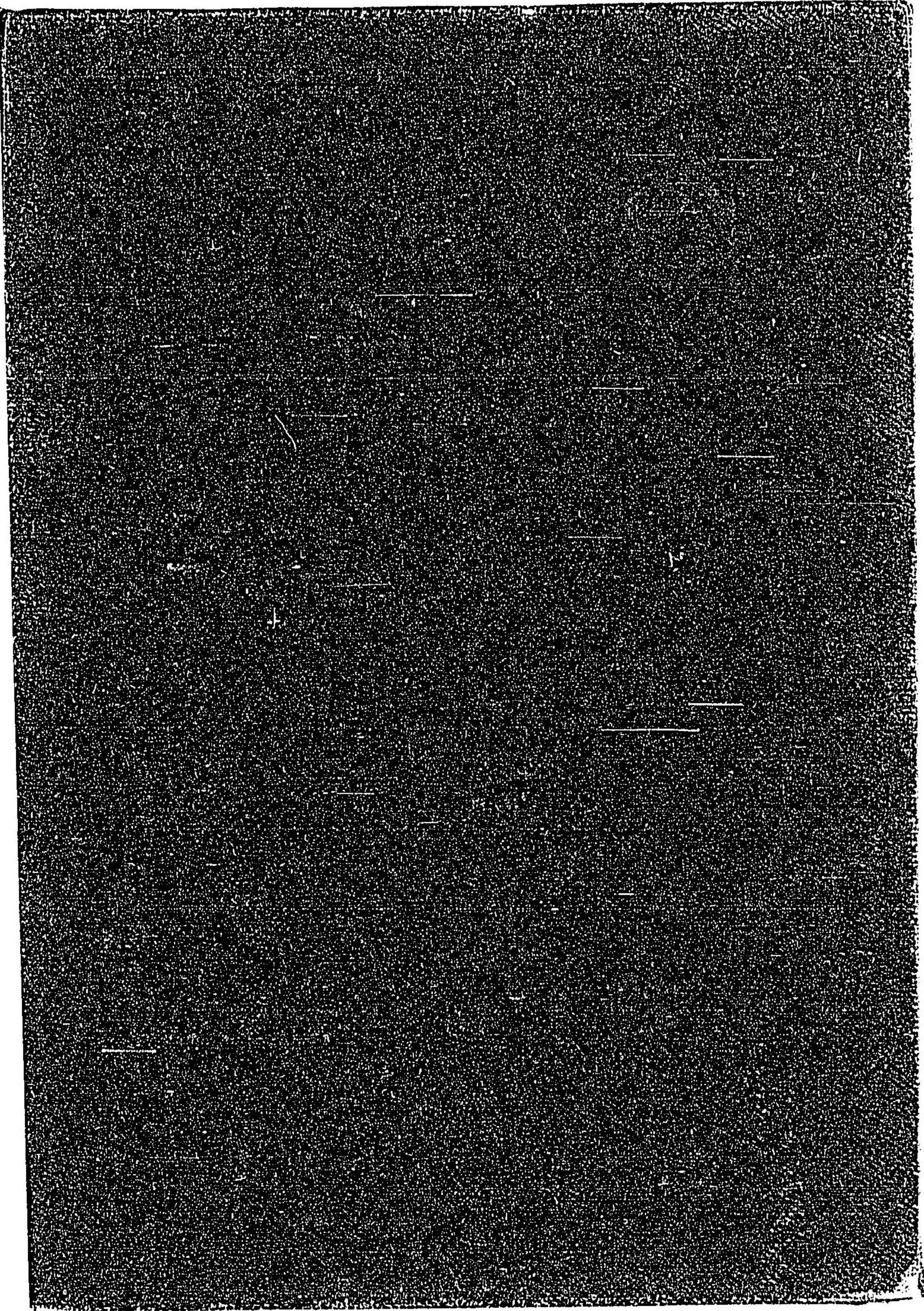
東京日本橋區北鞘町五番地
第百五十二國立銀行全地所

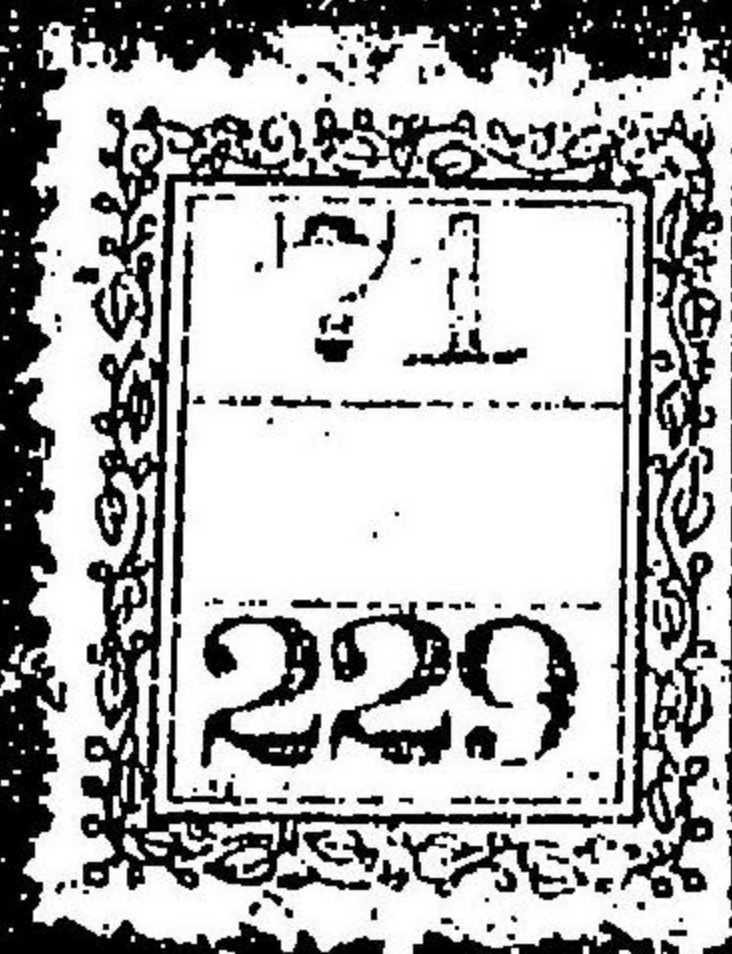
いろは辭典發行部

追白弊部發行書籍の見本を要せらるゝときは何時にても郵券二錢送付あれば寫真石版明治書畫帖、いろは辭典(兩種)、市町村一覽、市町村便覽、石版印刷康熙字典、及寫真石版現行法典、警察寶典等一切の見本并詳記したる廣告書を送呈す

91

229





030987-000-4

CZ-5-0250

国民必携 (袖珍石版)

丹羽 五郎 / 編

M27

BBC-0453



